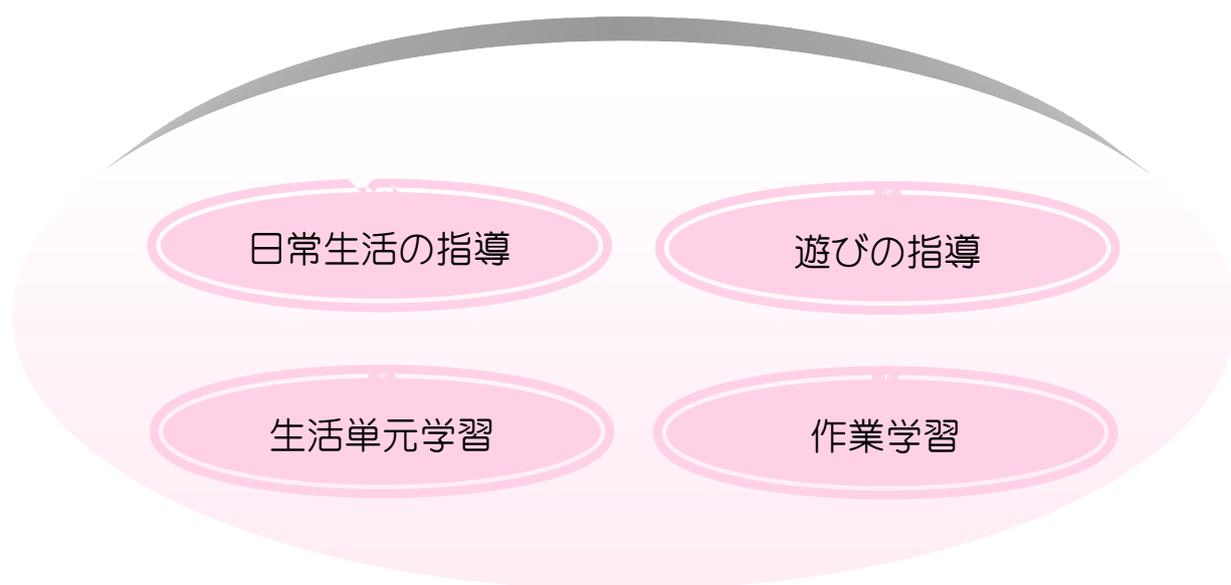


子どもたちの笑顔が輝く授業づくり

# 「各教科等を合わせた指導」

## ステップアップガイド

### 学習指導案集



「各教科等を合わせた指導」は、知的障害の特性を踏まえた効果的な指導です。

## 目次

はじめに	
「各教科等を合わせた指導」の教育活動とは・・・・・・・・・・	1
「各教科等を合わせた指導」の4つの形態とは・・・・・・・・・・	2
「各教科等を合わせた指導」の授業研究のコツとは・・・・・・・・	3
「遊びの指導」の授業づくりのヒント・・・・・・・・・・	4
授業サンプル①～⑤・・・・・・・・・・	5
「生活単元学習」の授業づくりのヒント・・・・・・・・・・	29
授業サンプル⑥～⑪・・・・・・・・・・	30
おわりに	
参考文献 執筆・編集スタッフ	



## はじめに

京都府が府立特別支援学校 11 校と共に取り組む教育課程実践研究（2 年目）を取りまとめました。

前年度、初めて府立特別支援学校及び特別支援学級担任の研究協力員とともに各校の教育課程・授業実践を持ち寄りながら検討し、今年度は「文部科学省特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究」として、実際に各校の授業を相互に参観し、指導案集を提案できるよう研究を進めてきました。また、その成果を地域の特別支援学級にも参考に活用して頂けるように、全特別支援学級担任へのアンケート調査を実施し、担任が活用できるガイドブックを別途作成しました。

研究冊子作成に先立ち、平成 26 年 12 月 25 日、京都府総合教育センターを会場に研究報告会を実施しました。府内教職員に案内したところ、特別支援学校、小・中学校の特別支援学級担任、高等学校の特別支援教育コーディネーター等約 200 名の参加者に各校で実施した授業内容を報告することができました。

この府立特別支援学校 11 校が一堂に介して授業実践を発表する初めての試みでは、研究協力員が 10 年目未満の若手・中堅が中心だったこともあり、各校の授業研究部、人材育成部、管理職等より多数の校内支援や研究協力があつたという嬉しい動きも見られました。

今、京都府内の学校は校種を問わず、教員の大量退職・新規採用に伴う担任交代期に入っています。個に応じた指導を専門性とする特別支援学校や特別支援学級で行う配慮支援を要する子どもたちへの授業も、これまでの知恵と技を受け継ぐと同時に、日々、目の前の子どもたちに合った授業をどのように創っていくのか、参考となるツールが求められています。一人一人の個性が違ふように、同じ題材を扱う授業でも、学級担任や在籍する子どもたち、地域性等によって異なるはずで、アセスメントに基づく授業を日々苦心して計画実施される際に、少しでもこの研究の視点や指導案集が参考となればと願っています。

また、他校の授業を見て、自校の授業実践を振り返ることは、研究協力員にとって大きな刺激になったと聞きます。授業研究は教員の学校のグループで進めましたが、オール京都の視点で自らの実践を振り返る機会は重要であったと思います。

次年度以降、府立特別支援学校は各校ごとの授業研究をより一層深めて頂くこととなります。国全体でインクルーシブ教育を進めていく時代にあつて、どの教育の場を選んでも、そこに在籍する子どもたちに合った授業が工夫され、実践されることがより一層期待されています。

京都府総合教育センター特別支援教育部は子どもたちへの授業が難しいといわれる中、「ユニバーサルデザイン授業」に続いて「各教科等を合わせた指導」の研究に取り組みましたが、どの場所においても、個々の障害特性や教育的ニーズを含むアセスメント、リサーチを加味した PDC A で授業実践が創られていくことは同じです。特別支援学校の授業実践研究を、地域へのセンター機能を果たす役割のひとつとしても、読み取って頂ければと願っています。

平成 27 年 3 月

京都府総合教育センター特別支援教育部

## 「各教科等を合わせた指導」の教育活動とは



「各教科等を合わせた指導」は、知的障害のある子どもの教育の独自の指導形態であり、知的障害の特性を踏まえた効果的な指導です。

児童生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとされています。

日常生活の指導

遊びの指導

生活単元学習

作業学習

これらの4つの指導形態について、学習指導要領解説には、

「指導に当たって考慮する点」

が示されています。

指導内容の 選択・組織	見通しの もてる日課	必要な 技能や習慣
職業教育の 重視	生活に結び付 いた具体的な 活動	多様な 生活経験
教材教具の 工夫	段階的な指導	豊富な 成功経験
主体的活動	役割	課題に応じた 指導

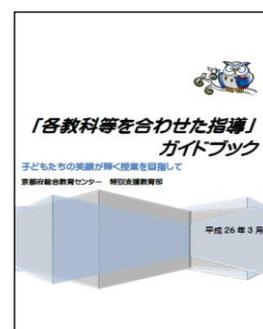
知的障害のある児童生徒の基本的な指導の進め方を踏まえた授業づくりが必要です。

### 知的障害のある児童生徒の基本的な指導の進め方

特別支援学校及び特別支援学級で多く実践され、知的障害を踏まえた効果的な指導であるといわれる「各教科等を合わせた指導」の授業力を高めることが必要です。

「各教科等を合わせた指導」に関する理解及び授業の詳細について、「各教科等を合わせた指導ガイドブック」に掲載しています。

京都府総合教育センターホームページ（ITEC）を御覧ください。



## 「各教科等を合わせた指導」の4つの形態とは

**日常生活の指導** 日常生活の指導は、児童生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動を適切に指導するものです。

指導に当たって考慮する点
① 日常生活の自然な流れに沿い、その活動を実際的で必然性のある状況下で行うものであること
② 毎日反復して行い、望ましい生活習慣の形成を図るものであり、繰り返しながら、発展的に取り組むようにすること
③ できつつあることや意欲的な面を考慮し、適切な援助を行うとともに、目標を達成していくために、段階的な指導ができるものであること
④ 指導場面や集団の大きさなど、活動の特徴を踏まえ、個々の実態に即した効果的な指導ができるように計画されていること

引用：特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）

**遊びの指導** 遊びの指導は、遊びを学習活動の中心に据えて取り組み、身体活動を活発にし、仲間との関わりを促し、意欲的な活動を育み、心身の発達を促していくものです。

指導に当たって考慮する点
① 児童が積極的に遊ぼうとする環境を設定する。
② 教師と児童、児童同士の関わりを促すことができるよう、場の設定、教師の対応、道具等の工夫をする。
③ 身体活動が活発に展開できる遊びを多く取り入れる。
④ 遊びをできる限り制限することなく、児童の健康面や衛生面に配慮しつつ、安全に遊べる場所を設定する。
⑤ 自ら遊びに取り組むことが難しい児童には、遊びを促したり、遊びに誘ったりして、いろいろな遊びが経験できるように配慮して、遊びの楽しさを味わえるようにする。

引用：特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）

**生活単元学習** 生活単元学習は、子どもが生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際的、総合的に学習するものです。

指導に当たって考慮する点
① 単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態等や興味・関心などに応じたものであり、個人差の大きい集団にも適合するもの
② 単元は、必要な知識・技能の獲得とともに、生活上の望ましい習慣・態度の形成を図るものであり、身に付けた内容が生活に生かされるもの
③ 単元は、児童生徒が目標をもち、見通しをもって、単元の活動に積極的に取り組むものであり、目標意識や課題意識を育てる活動を含んだもの
④ 単元は、一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、集団全体で単元の活動に共同して取り組めるもの
⑤ 単元は、各単元における児童生徒の目標あるいは課題の成就に必要なかつ十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてのまとまりのあるもの
⑥ 単元は、豊かな内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な経験ができるように計画されていること

引用：特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）

**作業学習** 作業学習は、作業活動を学習活動の中心にしながら、子どもの働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に扱うものです。

指導に当たって考慮する点
① 生徒にとって教育的価値の高い作業活動等を含み、それらの活動に取り組む喜びや完成の達成感が味わえること
② 地域性に立脚した特色をもつとともに、原料・材料が入手しやすく、持続性のある作業種を選定すること
③ 生徒の実態に応じた段階的な指導ができるものであること
④ 知的障害の状態等が多様な生徒が、共同で取り組める作業活動を含んでいること
⑤ 作業内容や作業場所が安全で衛生的、健康的であり、作業量や作業の形態、実習期間などに適切な配慮がなされていること
⑥ 作業製品等の利用価値が高く、生産から消費への流れが理解されやすいものであること

引用：特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）

## 「各教科等を合わせた指導」の授業研究のコツとは

平成 26 年度特別支援教育に関する実践研究充実事業（特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究）「自立と社会参加に向けた『各教科等を合わせた指導』充実をめざした実践研究」として府立特別支援学校 11 校が、「各教科等を合わせた指導」の授業研究に取り組みました。

府立特別支援学校 11 校が共に学び合い、研究協力員が校内で効率的、効果的、継続的に授業研究を進めることができるような研究体制を構築しました。また、「各教科等を合わせた指導」の授業研究では、学習指導要領解説の「考慮する点」を授業づくりの視点として共有しました。

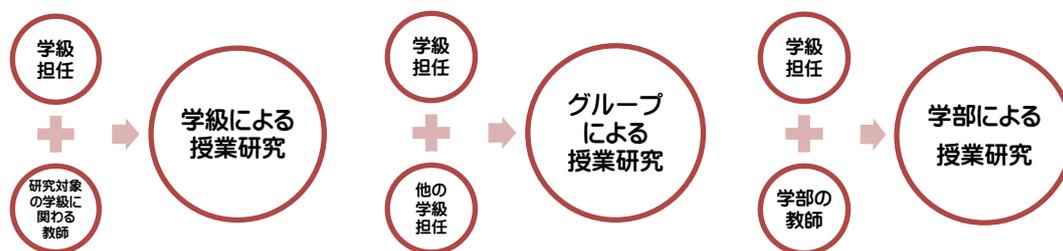
「各教科等を合わせた指導」の授業研究を進めるためのコツを 2 点示します。

効果的

効率的

継続的

### 授業研究のコツ① チームでつながる



#### (例) 授業研究グループ

「各教科等を合わせた指導」の授業研究を推進するために、校内の研究体制づくり、いわゆるチームづくりをしましょう。

授業づくりにおける PDCA サイクルのプロセスを、授業者だけではなく、授業に関わる複数の教師で共有しながら、授業研究を充実させましょう。

様々な規模に合わせて授業研究の進め方やルールを考えることで、機能的な授業研究につなげることができます。

### 授業研究のコツ② ポイントをしぼる

授業研究は、子どもを多面的に理解したり、授業の見方や考え方をお互いに学び合ったりする場です。

教師のそれぞれの専門性を発揮するあまり、授業研究の的がしぼれないこともあります。

授業研究を始める前に、研究を進める全ての教師が「何を」「どのポイントで」発言すればよいのかわかるように授業研究の進め方やルールを明確にしましょう。

「各教科等を合わせた指導」の授業研究では、「考慮する点」を基に授業研究を進めることで、授業改善のポイントを焦点化することができます。

研究成果として、「遊びの指導」と「生活単元学習」の学習指導案をまとめました。

5 つの「遊びの指導」の授業サンプルと、6 つの「生活単元学習」の授業サンプルを掲載しています。今後の授業づくりや授業改善等に役立ててください。



## 「遊びの指導」の授業づくりのヒント

「遊び」とは知的好奇心によって開始される探索活動であり、その活動の中で、子どもたちは新たな遊びや活動に目を向けたり、活動への意欲をもったりします。また、「遊び」を中心とした活動を通して、達成感や満足感を追求しようとしています。そうすることで、「認知発達」、「情緒発達」、「運動発達」が促進されます。

「遊びの指導」の授業づくりにおける、5つの考慮する点を踏まえた授業づくりのヒントは以下の点です。

場の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマに沿ったイメージを膨らますための環境設定</li> <li>・ 複数の教室や廊下・階段の活用した環境設定</li> <li>・ 五感（触覚、嗅覚、視覚等）を使って感じる・味わうことができる環境設定</li> <li>・ 子どもが自ら発見したり、友だち同士で関わったりすることができる環境設定</li> <li>・ 大型遊具を活用した環境設定</li> <li>・ 自ら取り組むための環境設定</li> </ul>
関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ストーリーやテーマに親しみ、その中での自然な友だちとの関わり</li> <li>・ 友だちに気付く、意識を向ける活動の中での関わり</li> <li>・ 遊びによる意図的な友だち同士での関わり</li> <li>・ 教師や友だちを見て真似ようとする関わり</li> </ul>
活発な身体活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 素材からダイナミックな動きを引き出す身体活動</li> <li>・ 子ども自身が活動の中で自然に体を動かす身体活動</li> <li>・ 五感（触覚、嗅覚、視覚等）をフルに使う身体活動</li> <li>・ 大型遊具を活用した身体活動</li> </ul>
安全・衛生面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 靴下で活動する状況での配慮</li> <li>・ 裸足の子どもと靴を履いている子どもが混在した状況での配慮</li> <li>・ 先が尖っている、壊れやすい教材の配慮</li> <li>・ ダイナミックすぎる動きのある活動における配慮</li> </ul>
遊びの経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 育みたい力と関連した「おもしろさ」、「楽しさ」を踏まえた遊び</li> <li>・ 決まりやルールの変化を楽しむ遊び</li> <li>・ 自ら工夫したり、変化させたりできる遊び</li> <li>・ 教師や友だちとの関わりの中での遊び</li> </ul>

授業研究から得た「遊びの指導」のヒントと合わせて、考察としてまとめた点は以下の4点です。

### 興味・関心を育む活動

遊びの指導では子どもの興味・関心を捉えて題材を設定します。しかし、知的障害のある子どもは、その特性に関わって興味・関心が狭かったり、他の遊びに興味に向きにくかったりします。子どもの好きなことばかりにとらわれると興味・関心の幅の広がりを促すことが難しくなる場合があります。子どもが「好き」な活動を前提として、教師が子どもの興味・関心を育む視点をもつことが大切です。

### 活動の活発化と安全性の確保

活発な身体活動を目指した内容設定や様々な遊びの設定の中で安全面が課題となる場面があります。安全面や衛生面を最優先課題とすることが重要です。

### 遊び込みと遊びの広がり

「遊びの指導」では、子ども自ら遊び込むことが重要です。子どものどのような姿をもって遊び込んでいると捉えるのか、また、遊びの広がりを目指すためにはどのように指導するのかという視点を教師間で共有することが大切です。

子ども自身が「遊び込み」と「遊びの広がり」の両方を感じることができるよう授業構成の工夫が必要です。

授業構成の工夫の中に、教師と一緒に遊ぶ、モデルになる、直接関わる等教師の動きに関わる指導の工夫が大切になります。

### 社会の簡単なルールを学ぶ

ただ遊ぶというだけでなく、遊びたいから、友だちの様子を見る、順番を待つ、交代に遊ぶというスキルを遊びの中で子どもたちが自ら獲得することができます。遊びを通して、社会の簡単なルールを学ぶことが重要です。

授業研究において取り組んだ5つの「遊びの指導」の「授業サンプル①～⑤」の学習指導案を紹介します。

これらの学習指導案は遊びの指導のサンプル授業の例です。併せて、授業に関わる教育課程や指導計画も参考資料として掲載しています。今後の授業づくりに役立ててください。

- 1 対象 小学部〇組 第〇学年〇名
- 2 日時 平成〇年〇月〇日〇曜日 第〇校時 〇：〇～〇：〇
- 3 場所 小学部〇組教室、グループ学習室
- 4 単元名 「にじいろのさかな」
- 5 学級の実態

小学部〇組は、重度重複障害の学級である。運動面に関しては、寝返り等で姿勢変換が可能な児童から手つなぎ歩行が可能な児童まで幅広いが、どの児童も積極的に屋外へ出かけたり、身体に対する働きかけを受け止めたりすることが可能で、外界からの様々な働きかけを受け止めることができる。落ち着いた生活や活動の中で過度に緊張が起こらないように調節していくことが必要である。児童の中には、筋緊張が強く、何かしようとする時や声を出そうとする時や姿勢を変える時、音等に驚いた時に反りが強くなる児童もいる。手指の操作は程度の違いはあるが、どの児童も「握る、離す、引っ張る」等ができ、手指を使う活動や遊びの中で操作性の向上に努めている。認識面では、教師からの問いかけや呼名に対して発声や手の動きで応えることができる。どの児童も発声で要求や拒否を表すことは難しいが、見通しがもてる活動を設定し、落ち着いた環境の中で、発声の他に表情や手の動き等、個に応じた方法で自分の気持ちを表現したり、人とのやりとりをする力を獲得したりしていくことが必要である。

#### 6 単元設定の理由

児童の実態を踏まえ、「身体」・「見通しの力」・「手の活動」・「感覚」・「やりとり、コミュニケーション」等を学習の中心的課題としている。そして学習の中で

- ① 身体への働きかけを受け止め、自ら身体を動かすことの楽しさや変化に気付くこと
- ② シンボルや授業の流れから次の活動を見通し、期待感をもって活動に臨んだり、自発的に活動に向かったりする力をつけること
- ③ 手や指先を使ってものに働きかけ、感触や変化を楽しみながら、手指の操作性や巧緻性を高めること
- ④ 様々な感覚への働きかけを受け止め、周囲の環境の変化を感じ読み取ること
- ⑤ 活動の中で自分の思いを発信したり、教師と共感したりする中でやりとりする力やコミュニケーションの力を伸ばしていくこと

を目標に取り組んでいる。

今回は「手の活動」「やりとり、コミュニケーション」に視点を当て、お話遊びの中で教師とやりとりしながら自ら働きかける活動を設定した。

題材については、展開がシンプルで児童にも親しみやすい話として絵本の「にじいろのさかな」を題材にして取り組むこととした。

児童が「にじうお」と一緒に海の中に遊びに行き、そこで「にじうお」が落としたウロコを児童が見つけるという話の中で、揺さぶり遊びや手指を使う活動に取り組む。海の中に入っていく場面では滑り台とシートハンモックを使い、揺さぶり遊びを取り入れる。全身に働きかける揺さぶり遊びは児童たちが好きな活動の一つでもあり、活動の楽しさを感じさせるとともに、やりたい気持ちを指導者に伝えることにも取り組みたいと考えている。ウロコ探しでは黒色のボードに張ったウロコを児童たちが自分たちのできる形ではがして「にじうお」に渡すようにしている。この活動の中で、目標物に注目して意識して手指を動かすことに取り組ませたい。個々の児童によって手指の操作性は違うが、両手を使うことや、意識してひもを握ること等、それぞれの児童の課題に沿った設定をして、児童たちがそれぞれ実感をもって活動したり達成感を感じられたりするようにしたい。

7 児童の実態

氏名	実態
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の大部分で全介助が必要である。</li> <li>・膝立ち歩きができ、興味のある場所や物まで移動ができる。(バランスを崩すことやてんかん発作によって前後左右に倒れる恐れがあるので注意が必要)</li> <li>・周囲の人の動きや声等に注意が向き、活動が途切れてしまうことがある。また、環境が変わると活動に取り組めないことがある。</li> <li>・楽しい時や嫌な時は発声や表情、机を両手で叩く、涙を流す等して相手に訴える。</li> <li>・右手人差し指でボタンを押すことができる。</li> <li>・絵本や写真を一定の時間見ることができ、絵本の好きなページを開いて眺めている。</li> <li>・指導者の手を取ってクレーンで読んでほしい絵をタッピングすることがある。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未定頸で筋緊張が強く、何かしようとする時や声を出そうとする時、また姿勢を変える時や音などに驚いた時に反りが強くなる。(反りが強くなると非対称姿勢も強くなる。)</li> <li>・緊張が強く右側に傾くことや顔が右を向くことが多い。</li> <li>・注目しようとする顔が反対の方を向いてしまうことが多いが、視線を向けて見ようとすることはできる。</li> <li>・左手の手指は、力を抜いて一定時間、物を握り続けることができ、コントロールしやすい。</li> <li>・聴覚からの情報に敏感なため、活動時は環境を整理することが必要である。</li> <li>・活動を繰り返したり、モデルを提示したりすることで見通しをもって活動に取り組むことができ、友だちの活動も注目して見ることができ。</li> <li>・教師の話しかける言葉に対して一定理解でき、協力動作を取ることができ。</li> <li>・問いかげに対して視線や表情、発声で応えることができる。</li> <li>・「YES」、「NO」で答える二者択一の間いかげには表情や舌を出すことで応えることができつつある。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四つ這いや高這い、つかまり立ち、片手つなぎでの移動ができ、言葉かけを受け、相手の方へ移動したり、自分から向かったりすることができる。</li> <li>・歩行は不安定で接触や転倒に注意が必要である。</li> <li>・弱視・難聴があり、環境への配慮が必要である。</li> <li>・手を出したり、手と手を合わせたり等の模倣ができる。</li> <li>・マジックや筆を持って手を動かし、なぐり書きができる。また、ほしい物があると近くの教師の手や自分の手を叩いて「ちょうだい」と伝えられるようになってきた。</li> <li>・教師との関わりだけでなく、学級の友だちにも興味をもち始め、自分から関わりに行くことが増えてきた。</li> <li>・手にしたものを舐めたり、左手で自分の喉を抑えたりと自己刺激をすることがある。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未定頸だが、関心のある方へ顔を持ち上げ見ようとする力がついてきている。</li> <li>・介助座位では正中位保持ができつつある。</li> <li>・感情が高まった時に緊張が高くなるが多いが、整理された場面では力を抜いて活動に向かうことができつつある。</li> <li>・緊張が強く可動域に制限はあるが、左右上肢の随意性が高く教師の見本通りに動かそうとする様子が見られる。</li> <li>・決まった言葉がけで緊張を緩めようとする等、自分の身体をコントロールできつつある。</li> <li>・人と物を見て、「〇〇先生と□□したい」という思いを伝えられつつある。</li> <li>・何事も一番にしたい気持ちや教師のしていることを同じ様にやってみたいという気持ちが強い。</li> <li>・活動を何度か繰り返すことで見通しがもて、期待した表情を見せることができる。</li> <li>・活動の場面では声を出したり手を挙げたりして「もう一回」等の気持ちを表現することができる。</li> </ul>

8 単元目標

- ・「にじうお」のペープサートを注視しながら、お話を聞くことができる。
- ・シーツハンモックの揺れや傾きを受け入れて、海に入るイメージを楽しむことができる。
- ・変化や結果をイメージして、自分からウロコを探して取ることができる。

9 単元指導計画 (本時3次 4/8時間)

配当時間	学習活動目標	学習活動における評価基準			
		A	B	C	D
1次 4時間	○お話し遊び ・活動に興味・関心を持ち、注目することができ	・ペープサートの動きを目で追うことができたか。	・歌が始まると、学習への見通しと期待感をもってペープサートに	・歌が始まると気持ちを向けることができたか。 ・近くにペープ	・ペープサートの動きを目で追い、次に出てくる所を予測して見る事ができたか。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌やペープサートで始まりを意識する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近くにペープサートが来ると手を伸ばせたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>注目できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サートが来ると顔を上げ見ようとしたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つもり遊びの中で教師が隠れていることを期待して見ていたか。</li> </ul>
2次 10 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お話遊び</li> <li>・揺さぶり遊びを楽しむ。</li> <li>・やりたい気持ちを持ちを個に応じた方法で伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌が始まるとペープサートが出てくることを期待し顔を上げて見ようとしたか。</li> <li>・体全体に働きかける揺さぶり遊びを笑顔で楽しんでいたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の始まりやペープサートに見通しをもち、力を抜いて注目することができたか。</li> <li>・体全体に働きかける揺さぶり遊びで力を抜いて笑顔で楽しんでいたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌が始まると顔を上げペープサートを注目して見ることができたか。</li> <li>・手を上げたり、指導者とハイタッチしたりして、やりたい気持ちを伝えることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体全体に働きかける揺さぶり遊びを笑顔で楽しんでいたか。</li> <li>・手を上げたり声を出したりしてやりたい気持ちを伝えることができたか。</li> </ul>
3次 8 時間 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お話遊び</li> <li>・揺さぶり遊びを期待し自分から働きかけることができる。</li> <li>・自分から手を動かしウロコに働きかけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・揺さぶり遊びを期待し教師と手つなぎ歩行で向かうことができたか。</li> <li>・黒のボードから自分で手を使ってウロコをはがすことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表情や手の動きでやりたい気持ちを伝えることができたか。</li> <li>・揺さぶり遊びを期待し力を抜いて向かうことができたか。</li> <li>・ウロコに注目し、自分で輪を握り引っ張ることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、好きな姿勢でシートハンモックに乗り楽しんでいたか。</li> <li>・両手を使って隠されたウロコを見つけ出し、教師に渡すことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・揺さぶり遊びをしている友だちの様子を注目して見ていたか。</li> <li>・ウロコに注目し、自分で輪を握り引っ張ることができたか。</li> </ul>

10 本時の目標

- ・シートハンモックの揺さぶり遊びを期待して、自分から活動に向かうことができる。
- ・自分で目標物を意識して、ウロコを探したり、はがしたりすることができる。

<個人目標と評価>

	目標	教育的手立て	評価の観点
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・揺さぶり遊びを期待し、笑顔で楽しむことができる。</li> <li>・ボードに貼ってある目標物を自分ではがして指導者に手渡すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滑るだけでは児童にとって刺激が少ないので揺らす活動を意識して行う。</li> <li>・はがしやすいうように、ウロコを厚くし、児童の視線の位置に設置する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・揺さぶり遊びを笑顔で楽しむことができたか。</li> <li>・目標物に向かって自分から手を動かし、ウロコを取ることができたか。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・揺さぶり遊びを期待し、身体のを抜いて揺れを感じるができる。</li> <li>・自分で引っ張る色を伝え、ウロコに注目してひもを引っ張ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体の力を抜きやすい姿勢で取り組ませる。</li> <li>・握りやすいように布製の色のついた輪をひもに取り付ける。</li> <li>・緊張で視線がぶれないようにネックロールを首の周りに巻く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・力を抜いて揺さぶり遊びを楽しむことができたか。</li> <li>・自分の思いや気持ちを表情や手、舌の動き、声で伝えることができたか。</li> <li>・ウロコを意識してひもを握り、引っ張ることができたか。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・揺さぶり遊びを期待し自分から活動に向かうことができる。</li> <li>・両手を使って隠されたウロコを探して指導者に手渡すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問いかける時、児童にわかるように目の前で手を上げて持つ。</li> <li>・シートハンモックを目立つように置いておく。</li> <li>・両手を使わないと取れないようにウロコを隠す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四つ這いや高這いで自分から活動に向かうことができたか。</li> <li>・両手を使って隠されたウロコを探しだし、指導者に手渡すことができたか。</li> </ul>

D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・揺さぶり遊びを楽しみ、友だちの様子も注目して見ることができる。</li> <li>・自分で引っ張る色を伝え、意識してひもを引っ張ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの様子がよく見える位置に座らせ、近くの指導者が声をかける。</li> <li>・握りやすいように布製の色のついた輪をひもに取り付ける。</li> <li>・色を尋ねるときは目の前で違いが分かるように提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問いかけを受けて、自分から声や手の動きで思いを伝えることができたか。</li> <li>・揺さぶり遊びをしている友だちの様子を注目して見ることができたか。</li> <li>・自分の思いや気持ちを手の動きや声で伝えることができたか。</li> <li>・ウロコを意識してひもを握り、引っ張ることができたか。</li> </ul>
---	---	--	--

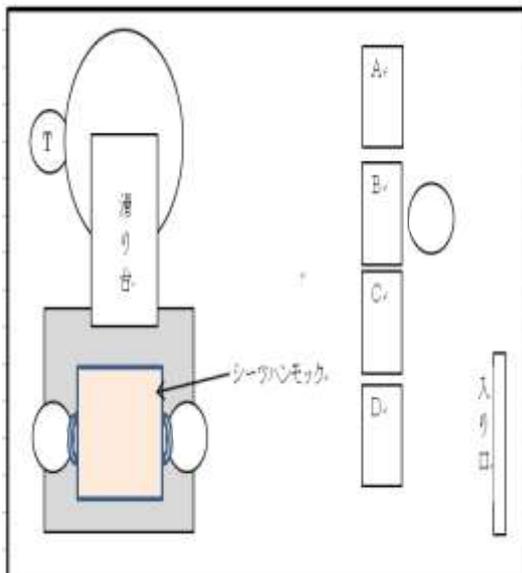
11 本時の流れ

過程	学習内容		指導上の留意点		準備物
	指導内容	学習内容	T 1	T 1以外	
導入	<p>あいさつ歌 歌で始まりを意識させる。 ペープサート ペープサートの動きに注目させる。</p>	<p>あいさつ歌で始まりを意識する。  ペープサートに注目する。 「にじうお」と一緒に海の中(学習室へ)</p>	<p>衝立の下から「にじうお」を登場させる。 姿を半分だけ出したり、隠したりして動きに注目させる。 あいさつをして児童の注意を向けさせる。 「海の中を探検しよう」</p>	<p>司会進行をする。 歌を歌う。 児童の意識を前に向けるように促す。</p>	<p>衝立 ペープサート</p>
展開	<p>揺さぶり遊び(滑り台) シートハンモックに乗って滑り台を滑らせる。</p> <p>ウロコを落とす</p> <p>ウロコ探しに出発</p>	<p>揺さぶり遊び(シートハンモックに乗って滑り台を滑り海の中に入る。) 問いかけに対して、声や表情、手の動きで答える。  指名されたらシートハンモックへ行く。(自分でその場所まで行ける児童は自分で行く。) 一人ずつシートハンモックに乗る。 「3・2・1 それー」で滑り降りていくことを期待する。 揺さぶり遊びを楽しむ。</p> <p>ウロコが落ちる様子に注目する。</p> <p>歌を歌いながら、教室を回りウロコ探しに出発する。</p>	<p>「ザブーンしたい人？」と児童のイメージしやすい言葉かけを行う。 児童の視線や表情、声、手の動きに注目する。 応答のあった児童を指名する。</p> <p>「3・2・1 それー」で期待感をもたせる。</p> <p>複数のウロコを1枚ずつ上から落とし、ウロコに注目させる。</p> <p>ウロコ探しに出発する。 児童の車いすを押す。</p>	<p>学習室ではBは椅子に座らせる。 Aの席は真ん中に設定する。 児童の視線や表情、声、手の動きに注目し、T1が気付いていない場合はT1に伝える。 指名された児童を車いすから降ろしてシートハンモックへ連れて行く。 車いす、椅子を窓側の方に移動する。(Bは手つなぎで、Aは自分で向かわせる。) 児童をシートハンモックに乗せ、滑り台へ。 滑り降りながら、最後5回揺らして下へおろす。 おろす時に「ザブーン」のかけ声をかける。 終わった児童を窓側に移動させ活動を見るようにする。 児童の車いすを押して歌を歌いながら教室内を回る。 Aは指導者と一緒に車いすを押して歩いて回る。</p>	<p>児童用いす キーボード シートハンモック 布団 滑り台</p>
	<p>ウロコ探し ウロコを手で取って「にじうお」に渡す。</p>	<p>黒のボードに貼ってある黄色いウロコをはがして「にじうお」に渡す。 順番はA→B→C→D</p>	<p>(事前にボードにウロコを張っておく。) 一人ずつ取りに行かせる。 ウロコが取れたら、「やったー」と児童に見せて確認させ、自分の身体に張り付ける。</p>	<p>ウロコを張ったボードを後ろから支える。</p>	<p>黒のボード ウロコ かご はこ</p>

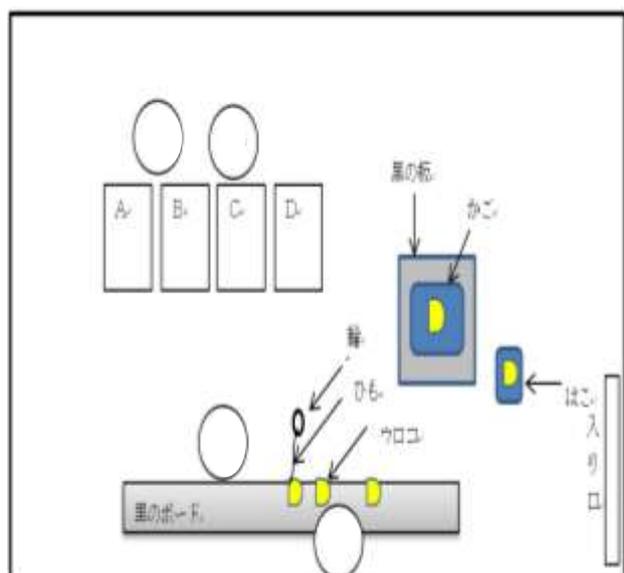
<p><b>ウロコ探し、各児童の取組み方</b></p> <p>A 黒ボードに貼られたウロコを手ではがして取る。 渡せるようなら指導者に渡す。集中して取り組めるように枚数は2枚とする。</p> <p><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘッドギア、胸ベルトを装着してT2が後ろから支えて黒ボードの所まで歩いて向かう。</li> <li>・ウロコは取りやすいように厚めのものを用意する。</li> <li>・ウロコに注目が行くように児童の好きな「にじうお」の絵をウロコに貼っておく。</li> </ul> <p>B 見えているが両手を使わないと取れないような所にあるウロコを取る。取ったウロコを指導者に手渡す。(枚数は3～4枚)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①黒ボードに貼られたウロコを手ではがして取る。</li> <li>②かごを手でどかせて、かごの下にあるウロコを取る。</li> <li>③手を入れて箱の中にあるウロコを取る。</li> </ol> <p><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四つ這い、高這いで向かわせる。</li> <li>・かごの下に黒の板を敷いてウロコを見えやすくする。</li> <li>・ウロコに気持ちが向かわない時は、ウロコの場所を叩いて音をだして意識を向かせる。</li> </ul> <p>C 黒のボードに貼られた色のついたウロコを選んでひもを引っ張って取る。(枚数は3枚)</p> <p><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・握りやすいようにひもの先に布製の輪を用意する。</li> <li>・ウロコ、ひも、輪に色を付ける。(3色用意)</li> <li>・輪を握らせひもが張るところまで車いすの長さを調整する。</li> <li>・引っ張る時に肘を支持する。</li> </ul> <p>D Cと同じ</p> <p><b>留意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊張から視線がぶれないようにネックロールを首に巻く。</li> </ul>					
	<p>バルーン遊び 高まった気持ちをバルーン遊びでゆっくりとおさめていく。</p>	<p>バルーン遊び</p>	<p>みんなを集めてバルーンをする。 バルーン持ち 歌に合わせてバルーンを上下する。</p>	<p>ピアノとバルーン持ち 歌に合わせてバルーンを上下する。</p>	<p>バルーン</p>
<p>まとめ</p> <p>「にじうお」とさよなら 今日の頑張り確認 終わりのあいさつ</p>	<p>さよならのあいさつ 今日の頑張り確認</p>	<p>児童一人一人とさよならのあいさつをする。 学習室から出ていく。</p>	<p>「にじうお」が帰った後、児童一人一人に今日頑張ったことを確認し、今日の活動をフィードバックする。</p>		

12 配置図(学習室)

\*揺さぶり遊びの場面



\*ウロコ探しの場面



# 授業サンプル①

## 参考資料 教育課程及び指導計画

### 1 児童生徒の実態（小学部：A段階）

- ・ 食事、衣服の着脱、排泄等で全面介助が必要であり、座位姿勢が不安定であったり、四つ這いや高這い、片手つなぎでの移動ができたりと実態は様々である。
- ・ 歩行の不安定さや視覚・聴覚の障害を併せもつ子どもが在籍しているため環境への配慮が必要である。
- ・ 「YES」、「NO」で答えることのできる問いかけには表情や舌を出すことで答えたり、ほしい物があると近くの指導者の手を叩いたり自分の手を叩いて「ちょうだい」と伝えられたりする。また、問いかけに対して視線や表情、発声で答えることができる。
- ・ 活動を何度か繰り返すことで見通しがもて期待した表情を見せることができ、活動の場面では声を出したり手を挙げたりして「もう一回」などの気持ちを表現することができる。

### 2 教育課程について

	日常生活の指導	特別活動	自立活動
時間数	350	35	595

### 3 日課表について

带状の日課を組むことで、1日の見通しをもてるようにしている。

多様な集団での児童の関わりや指導者との関わりをもつために、「わくわく集会」（水曜日1校時）を設定している。

グループで取り組む時間として校外学習（水曜日2・3校時）、合同音楽（月曜日1校時）を設定している。

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導（朝の活動・朝の会） 自立活動（合同音楽）：火 特別活動（わくわく集会）：水				
2	自立活動		校外学習	自立活動	
3	遊びの指導			遊びの指導	
4	生活				
給食	日常生活の指導（給食）				
5	自立活動（学級遊び）				
6	日常生活の指導（生活）				

火曜日3校時は言語指導の入り込み（自立活動）を設定し、学級全体の言語指導の時間としている。

### 4 指導計画（例）：遊びの指導

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
学校探検					体育祭に向けて		収穫祭・調理	
		にじいろの魚						
			水あそび			秋祭りにむけて		

- 1 対象 小学部 第○学年○組○名  
 2 日時 平成○年○月○日○曜日 第○校時 ○：○～○：○  
 3 場所 ○年○組教室  
 4 学習集団の実態

本学級は、自閉症やダウン症を併せもつA～B1段階の子どもたちである。学校生活の大まかな流れに沿って活動できるが、「自分で分かってやりきること」、「身近な他者に思いを伝えること」、「慣れた学級の友だちの中で安心して活動する」ことは、引き続き中心的な課題となる児童たちである。

5 単元名『いもほりにいこう』

6 単元について

(1) 単元設定の理由

プールや大型遊具遊び、リトミックや簡単な道具を使った製作遊び等の中で、感覚的な手ごたえを感じながら見通しをもち、慣れた教師となら安心して活動に向かえる姿が増えてきた。

次の段階として、

- ・身体全体をより協応させながらしっかり動かしきる活動をしたり、「動くー止まるーバランス」等の簡単な調整の力をつけたりしたい。
- ・自分から情報を取り込み、分かってできる活動を増やしていきたい。
- ・友だちと一緒に安心して活動できる中で、友だちの様子を見たり、友だちを誘ったりする等の人に関わる力の基盤を育みたい。

と考える。

本単元では、お話遊びの中で物を出す、ダンスする、Tシャツや帽子をかぶる、切符を入れる、芋のつるを引く、バスを支えて移動する、そりに乗ってスピードを感じる等、身体レベルで見通しをもちやすい活動を多く取り入れている。その中で、「分かってできる」をねらいつつ、バス模型に入った移動の場面や芋のつるを引くところでは、「からだのちから」を大事に取り組みたい。

また、ダンス曲で友だちとタッチする活動やバス模型に入って移動する活動、つるを引いたり、そりに乗ったりする活動等と必然的に友だちと共に活動する要素を組み込んでいる。その中で友だちを少し待ったり、一緒に乗ったり、気持ちを向けることをねらいたい。さらに、バスなどは日常的に児童たちが触れていてイメージも大まかに共有できることから、「人と一緒にいることが楽しい」を関連する簡単なごっこ遊びに展開しながら楽しめることも大切にしたい。

(2) 地域学習の観点

本校の地域学習では、すべての児童生徒にとって共通して「人とつながる力」を大切にすることが確認されている。その中で、小学部段階では、「参加・ルール」というキーワードの下、まず身近な教師や学級の友だちの中で、安心して思いを伝え合えたり、活動を共有できたりすることをねらっている。

今回の学級は、まず「自分ですべきことがわかって活動に向かえる」、「教師に思いを伝えたり、学級の友だちとも一緒に同じ場を共有したりして活動することができる」ことを大切にしたい。

(3) 児童生徒の実態

ア 単元における学習集団の実態

活動のシンボルとなるような具体物や音楽があること、活動ごとに身体全体をしっかりと動かす内容であること、そしてそれらと同じ流れで何度も繰り返していくことで、見通しをもって自分で気付いていける子どもたちである。分かる中身、そして好きな感覚的な遊びの中で、教師に「もう一回」と伝えたり、一緒にする友だちを少し見たりする場面も少しずつ増えている。

イ 単元における個々の児童生徒の実態

氏名	実 態
A	新しい活動や場所は、何度も歩いたり、触って確かめたりすることで少しずつ分かって参加できる段階の児童である。ボディイメージが未熟な部分があり、粗大運動もやりたくても不安に感じる事が多いが、慣れた指導者を支えにして、取り組めることも増えてきた。要求は、写真カードで理解できるものもあるが、主にクレーンで伝える。伝えきれず、あきらめてしまうことも多かったが、粘り強く思いを伝える姿が見られ始めている。見て結果が分かりやすい簡単な操作の活動はできるが、慣れた活動でも、自分で気持ちをもちつづける難しさがある。できてうれしい気持ちを、まずは身近な指導者と共感していくことを積み重ねることが中心的な課題である。
B	たどたどしさはありつつ、2語文ほどで会話をする。基本的な身の周りの整理は自分でできるが、気分や環境により、ひもやタイヤ等に気持ちが入り込んだり、注意が移り変わって活動が途切れてしまったりすることもある。大人と楽しい見通しのあるやりとりをしながら、自分で活動をやりきることが課題である。また、1学期末には、友だちをよく見るようになり、自分より主張の弱い子には優しく、対等に思える子とは追いかけてこしたり、体の大きな子からはちょっと怖くてすっとひいたり様々な関わりが見られ始めた。友だちとも、イメージを共有しながら関わり遊びを広げることがねらいたい。
C	初めての音楽や活動は「怖い」と言って外に出ようとしがちだが、内容を一緒に確認したり、経験したりして活動が分かれば、だんだん参加できることが増えている。また、自分の思いと違うことや不慮のことに対しては、分かっていても受け止めきれず混乱してしまうことも

	<p>ある。しかし、その際、自分なりの言葉で困ったことや知りたいことを伝えられるようになってきた。</p> <p>自分の興味に限定されがちではあるが、見立て遊びや再現遊びをして、身近な指導者とイメージを共有しようとする姿も増えている。また、友だちの名前を呼んだり、学級の友だちのことを気にしたりする様子も出てきている。</p> <p>人への興味の芽生えを生かしつつ、他者と場所や目的を共有する心地よさを感じたり、その中で少し相手に譲ったり受け止めたりする経験を重ねたい。</p> <p>また、注意の散りやすさがあるので、環境設定の工夫が必要である。</p>
D	<p>日常の活動は、具体物を見たり、毎日の繰り返しの流れでおおまかに見通しをもったりと理解をしている。一方、分からなくても指導者の意図を受け止めて活動したり、指示を待ちがちになったりする場面もある。道具や量、動線など含め、見て内容が分かる活動の中で、自分で分かってやりきれてうれしい、という経験をしっかり積んでいきたい。</p> <p>遊びでは、砂場や、ブランコ、梯子渡りなどの遊具を使って、体にぐっと圧のかかる感覚や視覚的な変化を、単調に繰り返し遊ぶことが多い。その中で、発語はないが、直接行動や発声等で「イヤ」「もう一回して」など意思表示ができる。</p> <p>学級の友だちにも、本人なりに少し興味をもって近づく様子も見られ始めており、体にしっかり圧のかかる、本児の好きなダイナミックな設定で、指導者や友だちと心地よさを感じたり、簡単な要求を伝えたりする経験を積むことも大切にしたい。</p>

7 単元目標

- ・ 体幹を使って、腕や脚を協応させながら、電車を持つ、芋を引っ張る、走る、止まる等ができる。
- ・ 具体的な道具や音楽、移動すること等の活動で見通しをもち、自分で分かって動くことができる。
- ・ 友だちと同じバス模型に乗ったり、芋を引っ張ったり、また、周りの友だちの姿を見て、自分もやってみようとしたり、少し友だちを誘ったりすることができる。

8 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>○お話やダンスで、「うんとこしょどっこいしょ」や「タッチ」などキーワードの部分に、期待して見たり手拍子したりしている。</li> <li>○具体物や、音楽、道具を見て、見通しをもち自分で次の活動に移ったり移動したりしている。</li> <li>○友だちと同じバスや芋そりに乗っている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ひもを引いたり、シーツを裂いたり、重い芋やバスを持ちながら移動したりしている。</li> <li>○簡単な操作の道具を用いて、芋や紙を切ったり色付けしたりしている。</li> </ul>	

9 単元指導計画（本時：2次 7/9時間）

次	時	指導内容	評価の視点
1次	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年事前学習（お話遊びを見る、その後焼き芋を食べる。）</li> <li>・ 芋つる作り（シーツを裂いて遊ぶ。）</li> <li>・ 芋づくり（シュレッダー遊びをし、袋に詰める。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体全体を使って引っ張る、破る、散らす等、手ごたえのある様々な感覚を確かめることができる。</li> </ul>
2次	9	<ol style="list-style-type: none"> <li>① お話遊び「いもいもほりほり」</li> <li>② ユニフォームへ着替え（Tシャツ、帽子を着用）</li> <li>③ 準備運動（歌「タッチ」で簡単なつながり遊び）</li> <li>④ バスに乗り込む（切符を箱に入れて乗る）</li> <li>⑤ バスで移動（段ボール製の輪っか型のバス模型に電車ごっこのようにして皆で入って移動）</li> <li>⑥ 芋を引っ張る（階段の上にある大きな芋模型にひもをつけたものをみんなで引っ張り下ろす）</li> <li>⑦ バスに芋を乗せて教室へ帰る</li> <li>⑧ 芋そり遊び（大きな芋模型の上に乗って引っ張ってもらう）</li> <li>⑨ バスを車庫へ</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分で着替えをしたり、バスに乗り込んだりすることができる。</li> <li>・ バスを支えながら移動したり、腕と脚に力を入れてひもを引いたりすることができる。</li> <li>・ 友だちと同じバスや芋そりに一緒に乗ることができる。</li> </ul>
3次	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年校外学習事前授業（行先、行程の話）</li> <li>・ 校外学習（あらす芋農園の芋祭り）</li> <li>・ 調理（スイートポテトなど）</li> <li>・ 芋版、新聞づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おおまかな見通しをもって、簡単な道具を用いて芋掘りができる。</li> <li>・ 泡だて器、型ぬき、絵具、鉛筆等の道具を使って、芋を加工することができる。</li> </ul>

10 本時の目標

- ・ バスを支えながら移動したり、腕と脚に力を入れてひもを引いたりすることができる。
- ・ 道具を見たり、合図を受けて、自分から着替えをしたり、バスに乗り込むことができる。
- ・ 友だちと同じバスや芋そりに一緒に乗ったり、その際少し友だちを誘ったりすることができる。

<個々の児童生徒の目標>

氏名	目標	必要な支援
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合図を受けて、自分から着替えコーナーに向かったり、バス乗り場に移動したりすることができる。</li> <li>・ バスやひもを、自分でも少し支えながら、持ったり引いたり移動することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体物や動線を整理し、活動内容を明確にする。</li> <li>・ 少ない力でも把握しやすく手ごたえが得やすい素材の道具設定をする。</li> </ul>

B	<ul style="list-style-type: none"> <li>両手でバスやひもをしっかりと持ちながら、引いたり移動したりすることができる。</li> <li>運転手などバスのイメージをもちながら、友だちに声をかけたりしてバスごっこができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手の形状に合う穴やひもを用意する。</li> <li>帽子や運転席などの道具設定で見立てをしやすくし、おもしろそうな見本を見せることで、イメージと意欲をもたせる。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>おおまかな展開がわかり、友だちを待ったり、誘ったりしながら、自分から次の活動に移っていくことができる。</li> <li>バスの重みをしっかりと支えながら移動することができる。</li> <li>自分なりの見立てを指導者に伝える形で、バスごっこや芋そり遊びの途中で、アイデアを出すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の興味のもてる役割などを設定し、友だちに気持ちを向けやすい言葉がけを行う。</li> <li>本人が持ちやすい取っ手を用意したり、重さがかかり手ごたえを持ちやすい位置でバスに乗ったりするようにする。</li> <li>本人が日常的に興味をもち、好きなものの中で、キーワードを拾っておき、イメージを喚起させる道具を使ったり、言葉がけをしたりする。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>合図を受けて、自分からTシャツを着たり、バスに乗り込んだり、そりなどの好きな活動を期待して、それを運ぶことができる。</li> <li>友だちとペースを合わせながら歩いたり、友だちがそりをする様子を見たりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次に行う活動を具体物やカードで毎回示し、本児に指さしなど自分で確認することを促す。</li> <li>そりやひも引きなど、本人の好きな活動をたっぷりする中で、少し友だちのするのを待ってから本児が行うという設定を作る。</li> </ul>

### 11 本時の展開

過程	学習内容	児童生徒の学習活動	指導上の留意点・必要な支援・教材			評価の視点
			T1	T1以外	教材	
導入	① おはなしを読む ② Tシャツを着る	<ul style="list-style-type: none"> <li>座って読み聞かせを聞く。</li> <li>「うんとこしよどっこいしょ」の部分は一緒に読む。</li> <li>簡単な質問や呼びかけに答える。</li> <li>Tシャツと帽子を各自着用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本を読む。</li> <li>「みんなでいもほりに行こう」と言葉をかけて、Tシャツと帽子をかぶることを促す。</li> <li>必要に応じてDに言葉がけをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Aに身体接触したり、少し安心して読み聞かせに向かえたりする支援をしつつ、「うんとこしよどっこいしょ」の部分は一緒に読む。</li> <li>AがTシャツを被るところまで必要に応じて支援する。</li> <li>曲の「タッチ」の部分で子どものペアを見つけて手合せするよう支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本「いもいもほりほり」ミニ芋模型</li> <li>CDデッキ</li> <li>CD</li> <li>赤Tシャツ</li> <li>帽子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合図を受けて自分でTシャツを着たり、ダンスの構えをしたりできる。[AD]</li> </ul>
	③ 「タッチ」のダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単なジェスチャー付きのダンスを踊る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前で「タッチ」のダンスの見本をして見せる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>ダンスにおいて友だち同士で手合せができる。[ABCD]</li> </ul>
展開	④ バスに乗り込む ⑤ 移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダンス後に切符をもらう。</li> <li>バス乗り場入口のケースに入れる。(定位活動)</li> <li>バスに乗り込み、しばらく移動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>切符を渡す。</li> <li>Aが切符をケースに入れるところを支援する。</li> <li>運転手役の児童とやりとりしながら、「線路は続くよどこまでも」を歌って先導する。</li> <li>階段の踊り場に設定した「農園」でひもを、引っ張りたい児童に順番に渡していく。</li> <li>周りの友だちを少し待ったり、息を合わせる言葉がけをしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バス前で、バスに乗り込む子どもたちを呼ぶ。</li> <li>Aに近い場所で必要に応じてバスを支える。A、Dがひもを持ち続け、Aは少し引く感覚が分かるように支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バス</li> <li>切符4枚</li> <li>切符ケース</li> <li>運転手帽子</li> <li>大きな芋模型</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両手でバスやひもを支えながら、引いたり移動したりすることができる。[ACD]</li> <li>友だちのペースに合わせながら歩く。[C]</li> <li>指導者の言葉でイメージを共有しながらバスごっこを展開することができる。[BC]</li> </ul>
	⑥ 芋を引っ張り落とす	<ul style="list-style-type: none"> <li>「農園」で大きな芋を見つけ、全員でひもを持って引っ張り下ろす。</li> </ul>				

展開	⑦ バスに乗り移動	・芋をバスに乗せて、バスに乗り込み、移動する。	・芋が落ちてきたら、B、C中心にバスに乗せる支援。(移動は前に同じ)	・重くなったバスをしっかりと後ろから支える支援をし、共に移動する。		
	⑧ 教室で芋そり遊び	・教室に帰り、順番に大きな芋に乗って引っ張ってもらう。 ・一人一回ずつは乗ってみてもう一回したい人は二人乗りで遊ぶ。	・教室に帰り、一旦座った後、「乗りたい人！」の言葉がけで、そりごっこをはじめめる。	・そりを引っ張る。		
まとめ	⑨ バス駐車	・バスに芋を乗せて、駐車場に見立てた仕切りの中に入る。 ・「設定遊び」終わりのあいさつをする。 ※この後、好きなコーナーで各々が自由に遊ぶことも大切にしたい。	・「オーライ」などの言葉がけもしながら、駐車場に誘導する。	・AやDも少し引っ張って運べるよう言葉がけと身体援助を行う。	・簡単な見立てをしつつ、動作を伴って気持ちも収束させることができる。[ABCD]	・簡単な見立てをしつつ、動作を伴って気持ちも収束させることができる。[ABCD]

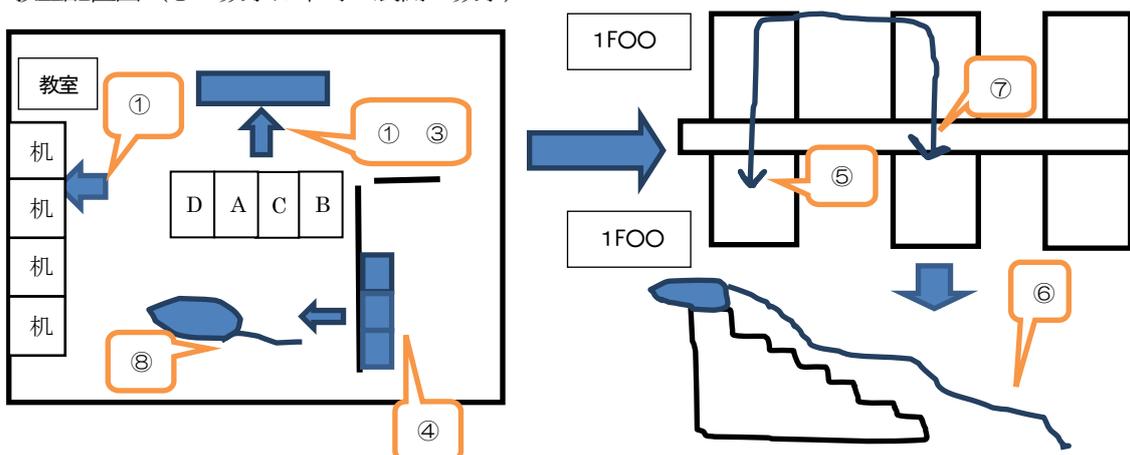
12 本時の評価

- ・バスを支えながら移動したり、腕と脚に力を入れてひもを引いたりすることができている。
- ・道具を見たり、合図を受けて、自分から着替えしたり、バスに乗り込むことができている。
- ・友だちと同じバスや芋そりに一緒に乗ったり、その際少し友だちを誘ったりすることができている。

<個々の児童生徒の評価>

氏名	評価の視点
A	・合図を受けて、自分から着替えコーナーに向かったり、バス乗り場に移動したりすることができている。 ・バスやひもを、自分でも少し支えながら、持ったり引いたり移動したりできている。
B	・両手でバスやひもをしっかりと持ちながら、引いたり移動したりすることができている。 ・運転手などバスのイメージをもちながら、友だちに声をかけたりしてバスごっこができている。
C	・おおまかな展開が分かり、友だちを待ったり、誘ったりしながら、自分から次の活動に移っていくことができている。 ・バスの重みをしっかりと支えながら移動することができている。 ・自分なりの見立てを指導者に伝える形で、バスごっこや芋そり遊びの途中で、アイデアを出すことができている。
D	・合図を受けて、自分からTシャツを着たり、バスに乗り込んだり、そり等の好きな活動を期待して、それを運ぶことができている。 ・友だちのペースに合わせてながら歩いたり、友だちがそりをしている様子を見たりすることができている。

13 教室配置図 (○の数字は本時の展開の数字)



## 授業サンプル②

### 参考資料 教育課程及び指導計画

#### 1 児童生徒の実態（小学部：B 1 段階）

- 日常生活では排泄に関することや偏食といった課題がある子どもから、基本的な身の整理等は自分でできる子どもと様々である。
- ボディイメージの未熟さや感覚過敏もある等、生理的な基盤が弱く、体づくりをしっかりしていく段階である。
- それぞれの興味の範囲は狭いが、その興味や分かりやすい活動を切り口に、参加できる姿が増えてきた。
- 指導者と楽しく見通しのあるやりとりをしながら、自分で活動をやりきること、友だちともイメージを共有しながら関わり遊びを広げることに課題がある。
- 困ったことや知りたいことを自分なりに言葉にして伝えることができるようになってきたが、自分の思いと違うことや不慮のことに対しては、受け止めきれず混乱してしまうことがある。

#### 2 教育課程について

	遊びの指導	日常生活の指導	基礎的な学習の時間	特別活動
時間数	175	544	175	35

#### 3 日課表について

基礎的な学習の時間は、遊びの指導や日常生活の指導と連動しながら生活に生きるための基礎的な力(国語、算数等、または自立活動の内容)をつけるため、個別または小集団で、個に応じた内容を取り組んでいる。

遊びの指導は、月曜日「音遊び」、火曜日「運動遊び」として年間単元で、水・木・金曜日は1ヶ月単元で取り組んでいる。

午後の遊びの指導は、プレイルームでの運動遊び、読書等をしている。

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導（荷物整理、着替え、排泄）				
	日常生活の指導（朝体操、自由遊び、朝の会）				
2	基礎的な学習の時間				
3	遊びの指導（単元に応じて）				
4	日常生活の指導（給食準備）				
5	特別活動	遊びの指導			
6	日常生活の指導 (荷物整理、着替え、排泄、終わりの会)				

#### 4 指導計画（例）：遊びの指導

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校大好き			水で遊ぼう						冬の遊びをしよう		
	植えよう・育てよう	プレイフェスタ			芋掘りに行こう	エンジョイフェスタ					1年のまとめをしよう
	お医者さんごっこをしよう	触って遊ぼう						わくわくクリスマス			

- 1 対象 小学部第○学年○名、中学部○学年○名、高等部○学年○名 計○名  
 2 日時 平成○年○月○日○曜日 第○校時 ○：○～○：○  
 3 場所 廊下、プレイルーム  
 4 単元名 「気になる木」  
 5 単元設定の理由

○グループは、全員が人工呼吸器や酸素ボンベを使用する等、医療的ケアの必要性が高い児童生徒である。A段階ではあるが、認識の幅が広く個々の表出の仕方も様々である。

学校以外の生活のほとんどを病棟内で過ごし、視覚障害や手足の麻痺等を併せもつ児童生徒にとって、いろいろなものに触れたり働きかけたりする経験はきわめて少ない。

そこで、聴覚や嗅覚といった保有する感覚も使いながら作品づくりができるように、また、内容を繰り返して見直しをもたせながら少しずつ展開していくように、ストーリー性をもたせた題材を設定した。

指導過程としては、4週間かけて「感触遊び」「道具や支援機器に慣れる」「作品づくりと観賞」という3つの場面を個に応じて展開させていく。ストーリーは、小鳥の鳴き声や木の香りのする“森”という環境設定のもと、様々な素材に触って遊んだり、子ども達が森の巨木からの“お願い”に応えるというストーリーの中で、自分たちで葉っぱや木を作ったりする活動を設定した。これらのストーリーの設定によって、子どもたち自身で木や森を元気にする意欲を高め、楽しみながら木や葉っぱを作ることができるように工夫した。

繰り返しと分かりやすい展開を心がけ、教師と一緒に触れる経験を積む中で、子どもたちが自ら対象に働きかけようと、友だちの作品を意識できるように、本題材を設定した。

子どもたち自身が安心して、分かって取り組めるようにするために、言葉がけを精選し、ゆっくり間を取りながら話しかけをすることや楽しさや嬉しさを共有することを大切にすることをポイントに指導を進める。

6 学習目標

- ・ 「気になる木」のストーリーに期待感をもち、心身ともにリラックスして活動に参加しようとする。
- ・ 紙や絵の具、鳥の鳴き声や木の香り等のいろいろな感触を受け止める。(B、F)
- ・ 触れたものに意識を向け、自ら手伸ばしをしたり、足や指を動かそうとしたりする。(A、C、D、E、G)
- ・ 友だちの作った木や葉っぱの作品に気付いたり、注視したり、見続けようとしたりする。

7 児童生徒の実態

	実 態	ねらい
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ つまむ、握る等、手指の細かな動きができる。</li> <li>・ 素材には慎重に触れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 抵抗なく触れることのできるものを増やす。</li> <li>・ 興味をもった素材に自ら働きかけることができる。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明暗の変化が分かる。</li> <li>・ 両手は普段軽く握った状態であり、随意的な動きは難しく指導者と一緒に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 素材の感触を受け止めながら、リラックスして活動する。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物事の因果関係を理解できる。</li> <li>・ 手足の指先にわずかに随意的な動きがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 色がつくことを意識しながら活動する。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 注視、追視ができる。</li> <li>・ 意思表示ができる。</li> <li>・ 右手は手首を返して払う動きができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろいろな素材の感触を受け止め、自ら働きかけることができる。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 注視、追視ができる。</li> <li>・ 両手とも握る、引っ張る力は強いが力のコントロールが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 素材に興味をもって、積極的に手指を動かそうとする。</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上部にあるものは捉えやすい。</li> <li>・ 温冷の違いが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手指で素材の感触を受け止める。</li> <li>・ 自ら素材に関わり、変化させる。</li> </ul>
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明暗の変化に気付く。</li> <li>・ 左手は不随意に動くが随意的な動きもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自ら素材に触ろうとして手指を動かすことができる。</li> </ul>

8 本時の展開

時間	指導内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 13:55	始まりのあいさつ	・ 太鼓の音を先導にプレイルームへ移動し、場所が変わることで授業の始まりを意識する。	・ 教室環境を整えておく。(室温 24℃以下、湿度 65%以下) ・ 集合までにバイタルチェックを終えておく。	①全員
	森への移動	・ 森の入口で、手拍子または足踏みで森へ入る合図を送る。	・ 適切な音量でリズムを取り、森へ入場する期待感を高める。	
展開 14:00	森の雰囲気を楽しむ	・ 保有する感覚を使って森の雰囲気を感じる。	・ 個人の課題に応じて感覚に働きかける。 視覚 (スクリーンの映像) 聴覚 (鳥の鳴き声や沢のせせらぎ) 嗅覚 (木や草の香り) 触覚 (木の枝等)	①全員
14:10	作品づくり	・ 巨木の願い (昔のように葉を茂らせ生き物達が集うような木になりたい) を聞く。 ・ 指導者と一緒に巨木のために作品をつくる。	・ 作品づくりのための動機を与える。 ・ 道具や支援機器等を利用して個に応じた支援を行う。 ・ 触れた感じや動作のリズムを言葉でも伝える。 ・ できた色、形から作品として見立てる。	② B C F ③ A D E G
14:30	鑑賞	・ 一人ずつ、自分が作った物について指導者と一緒に巨木に話しかける。 ・ 友だちの作品を知る。	・ 作品の紹介をしながら木に貼る。 ・ 作品を捉えやすい位置に車椅子を移動させる。	④全員
まとめ 14:35	みんなで歌おう  終わりのあいさつ	・ 自分たちの作品で、木が元気になったことを知る。 ・ 「この木なんの木」の歌に気持ちを向け、指導者と一緒に手足でリズムをとる。	・ 木が元気になった喜びを共感する言葉がけを行う。 ・ 歌に合わせてリズムをとる。	

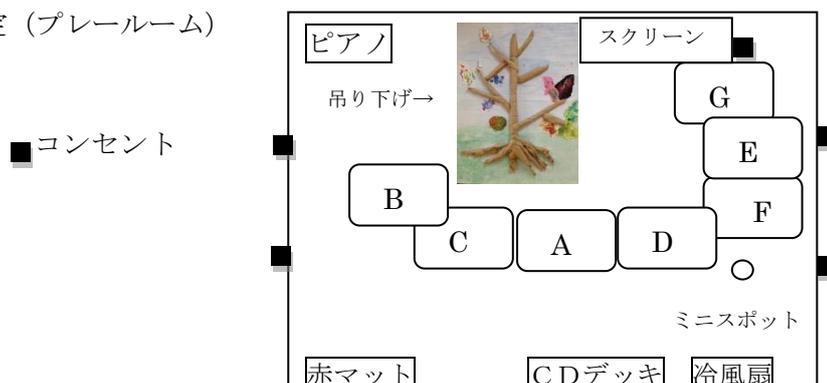
9 評価

- ① 「気になる木」のストーリーや活動の見通しをもち、リラックスして活動に参加している。
- ② 指導者と一緒に紙や絵の具等の素材に触れたり働きかけたりして、感触や色を受け止めている。
- ③ 触れたものに意識を向け、さらに触れようとしたり探ったりしている。
- ④ 友だちの作品を見たり聞いたりして気持ちを向ける。

10 準備物

太鼓、CDプレーヤー、森の音のBGM、木の香り (おがくず、木の葉)、巨木 (黒屏風)、うちわ、プロジェクタ、スクリーン、各自の課題に応じた素材と道具、作品を貼る模造紙、ガムテープ、マイク、スピーカー、ギター、扇風機 (湿度が高い時、送風する)

11 環境設定 (プレールーム)



## 授業サンプル③

### 参考資料 教育課程及び指導計画

#### 1 児童生徒の実態（小学部・中学部・高等部：A段階）

- ・ 全員が医療的ケアの必要な児童生徒で、○名が人工呼吸器を使用している。
- ・ 視覚障害の程度や運動機能の実態が一人一人違うため、個々の児童生徒の障害特性に応じた支援の工夫が必要である。
- ・ 言葉がけを精選し、ゆっくり間を取りながら話しかけをすることで、楽しさやうれしさを共有することを大切にしている。
- ・ 物や人への関心をもち、目で追う力や人とのやりとりを楽しむ力を高めることをねらう。

#### 2 教育課程について

		日常生活の指導	遊びの指導	特別活動	自立活動
時間数	小学部	385	245	35	210
	中学部	385	245	35	210
	高等部	385	245	35	210

#### 3 日課表について

病棟での生活がほとんどの児童生徒であるため、四季の移り変わりや自然を感じる機会を大切に学習内容を設定している。

聴覚・視覚・嗅覚・触覚等の感覚を活用して季節を味わったり、気付いたりしたことを友だち同士で教え合ったりする活動を大切にしている。

ICTをコミュニケーションツールとして活用することで、自ら気持ちを表出しようとする意欲を高める工夫をしている。

校時	月・木	火・金	水
1	病棟で入浴	日常生活の指導	日常生活の指導
2・3		入浴後指導	自立活動
4	日常生活の指導	日常生活の指導	日常生活の指導
	病棟で昼食休憩	昼食休憩	病棟帰棟
5	日常生活の指導	日常生活の指導	
6・7	遊びの指導	遊びの指導	
	病棟帰棟	病棟帰棟	

#### 4 指導計画(例)：遊びの指導

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
「春の詩」		「音楽レストラン」		「体育大会」				
		「気になる木」				「学習発表会」		

- 1 対象 小学部〇組 第〇学年〇組〇名  
 2 日時 平成〇年〇月〇日〇曜日 〇：〇～〇：〇  
 3 場所 プレイルーム及び廊下  
 4 単元名 「ボールであそぼう～どうぶつらんど～」  
 5 単元設定の理由

① 児童観

本学級は低学年の学級である。発達段階はA・B 1段階で、うち〇名は自閉スペクトラム障害である。

本学級の児童は、馴染みのある好きな活動に対して強い関心を示す一方で、初めての活動に抵抗を示し、できないと思うことに拒否感を示す児童が多い。自信がもてずに、教師の了解や援助を求める姿も頻繁に見られる。

トランポリンや吊り遊具、追いかっこなど、身体を使った遊びが大好きで、安心できる大人との関わりを土台に、好きな遊びを通して友だちと場を共有しながら遊ぶこともできる。活動の楽しさは、歓声を上げる、飛び跳ねる、拍手する等して表現し、笑顔で視線を合わせて他者と共有したり共感したりしようとする姿も見られる。

コミュニケーション手段は、実物、身振りサイン、写真、絵カードを使い、言葉でのやりとりができる児童もいる。感覚面で極端な過敏性をもつ児童もおり、不適切な感覚あそびや過度の不安・緊張につながらないよう配慮が必要である。

<児童の実態>

児童名	児童の実態
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が働きかけたことで音や視覚的な変化として反応が返るものを好んで遊ぶ。</li> <li>周囲の様子に気付くことができ、指導者が教材準備をしていると注意深く見ている。</li> <li>注意が移りやすいが、遊び方が分かると、物と物とをつなげて繰り返し集中して遊ぶ。</li> <li>ダイナミックに身体を動かしたり感覚欲求を満たしたりすることで物への注目が高まる。</li> <li>写真での理解は深まってきたが、教師の実物提示でより理解が深まる。</li> <li>実物や写真カードを手渡したり教師の手を引いたりして要求を伝え、座り込んだり手を払いのけたりして拒否を伝えられる。</li> <li>教師や友だちと視線を合わせて笑顔を向けたり、頬や身体を寄せたりする。</li> <li>筋力が弱く、上手くバランスを取れないこともあるが、トランポリンや滑り台など全身を動かして遊ぶことは好きである。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊張や不安感が高く、常に人形やハンカチを持ち、身近な教師や友だちを心の拠り所として過ごしている。</li> <li>初めての活動や馴染みのない物への抵抗が強く、言葉や身振りで指導者に援助を要求する。繰り返し周囲の児童が取り組んでいる様子を見て、教師と一緒に始めるところから活動へのきっかけをつかむことが多い。</li> <li>身近にある物の名前がわかり、大小、色や図形の名称などへの興味の広がりが見られる。</li> <li>見立て遊びができ、手持ちの人形等を使って教師と話しながら遊べる。</li> <li>四肢の動きにぎこちなさがあり、姿勢変換やバランスに弱さは見られるが、ブランコやトランポリン、かくれんぼ、追いかっこ、乗り物遊びが好きで活発に遊ぶ。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>かくれんぼ、見立て遊びが好きである。自ら遊びを見つけたり遊びに誘ったりすることは難しいが、身体を動かして活発に遊ぶことができる。</li> <li>会話は成立しにくい、関心のあることや気がかりなことを質問するなど、教師に積極的に話しかける。</li> <li>視覚的な情報が、言葉で表現することや、言葉と意味をつなげることの支えになる。</li> <li>初めての活動や場面に対して強い抵抗があるものの、好きな活動や物を支えに取り組もうとする姿が見られる。「できない」と思うことへの拒否感が強い反面、「できる」実感のある活動は、自信をもって率先して取り組むことができる。</li> <li>「～して～する」の操作ができ、大小など2つのものの比較ができる。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>トランポリン、吊り遊具、乗り物遊び(キャスターボードや箱車)が好きである。</li> <li>動作模倣ができるようになってきて、教師の動きを手本としてダンスや手遊び等に取り組める。</li> <li>日課の中の簡単な指示や手順は理解しているが、視覚的支援でより理解を深めている。</li> <li>写真カードや指さしで要求を伝える。少しの時間「待つ」ことも受け入れられる。</li> <li>初めての活動には抵抗を示すが、内容や流れが理解できるとしっかりやりきれる。</li> <li>学級の友だちへの仲間意識をもっており、場を共有して活動したい気持ちが強い。</li> </ul>

② 教材観

「転がる」「まわる」という動きを見るのが好きで、ボールへの関心も高い児童たちの大好きなボールを題材にした。ボールを載せて転がす、穴に入れるなど一目で見て分かる設定や、傘

を回すとボールが飛び散って床に落ちるなど視覚的变化を楽しめる設定を取り入れて意欲を引き出し、繰り返しの活動の中で「分かる」「できる」実感を大切に、自信をもって取り組めるようにしたい。

楽しくボール遊びをする中で、しっかり身体を動かせるよう、ボールプールの周りに、ボール投げやボール入れ、ボール転がし等の設定を配置し、すくう、投げる、入れる、転がす、積む等様々な遊びができる設定にする。

「ボール飛ばし」では、少し高い位置に設定することで、視線を上に向けたり、肩の高さまでしっかり肘を上げたりと、普段あまりしない身体の使い方をしてほしい。ボール投げは、箱を高く積んだり横に並べたり、その向きを考えたり、他者と競争したりと、1つのコーナーでさまざまな遊び方ができるようにすることで、自分で遊びを見つけたり考えたりする姿を引き出したい。ボール入れは、高さの違う筒を2本立て、高い筒に入れる時に、背伸びをしたり腕を伸ばしたりする動きを引き出していく。また、筒の高さの違いを自分の身体を通して実感できるようにする。

「ボール転がし」と「ボール落とし」では、転がってきたボールを穴に落とす流れを作り、ボールを落とすために中腰になったりしゃがみこんだり、ボールを転がすために立ち上がったりにできるようにする。さらに、棒を置いておき、手でボールを落とすだけでなく、道具を使って落とすことも経験させたい。また、一人でこれらの活動を完結させるだけでなく、遊びを共有したり要求を伝えたりと、他者と関わる場になるようにする。

ボールプールの周囲には、お玉やペットボトルを置き、手でボールを運ぶだけでなく、道具を使って働きかける姿を引き出していききたい。自分の好きな遊びを見つけるとともに、友だちや教師と共に様々な遊び方を体験してほしいと考え、流れの決まった遊びではなく、自由に遊びを選択したり遊び方を見つけたりできるようにする。

見立てやつもりが活動への取り組みやすさにつながると考え、遊び場の設定を「どうぶつらんど」と称し、様々な動物を設定の中に取り入れた。動物は、児童にとって身近で親しみやすく、擬人化して「くまにりんごをあげる」「ライオンと一緒にボールを運ぶ」等、「楽しく一緒に遊ぶ」というイメージをもちやすいと考えた。遊びの準備や片付けもみんなのできるようにしたいと考えており、準備場面では、楽しく期待を高めながら取り組めるよう、自分で選んで決めた動物と一緒にボールを運ぶという設定で、遊びに必要なカラーボールを準備する。

### ③指導観

初めは、教師が遊びの説明をしたり手本を示したりするのではなく、児童の気付きにつなげるための簡単な言葉がけにとどめ、児童が自ら働きかけて自分で遊び方や面白さを発見できるようにしたい。

繰り返しの取組で慣れてきたら、扱いやすい道具を準備し、個々の児童の実態に応じて、その使用を促していく。身近な物の名前が分かり、大小や長短など目で見て比較できるものについて理解している児童には、教師との見立て・つもり遊びを通して高さや大きさなどの違いに気付くようにしたり、言葉を引き出したりしながら楽しく遊べるようにしたい。個々の児童が、興味・関心に沿って楽しんで遊び込むことを大切にしながら、繰り返しの遊びで慣れてきたら、教師が仲立ちとなって友だちの遊びを他児に広げたり新しい遊び方を提案したりして少しずつ遊びを変化・発展させていきたい。

同じ設定に複数の児童が集まった時には、「ボールを転がす人」と「転がってきたボールを穴に入れる人」というように、無理なく自然な流れの中で役割をもたせたり、「もう一回転がして！」等自然と児童から言葉がけが生まれたりする状況を作りたい。また、教師も児童と共に思いっきり遊び込むことで、遊びやその楽しさを共有し合うよう心がける。

### 6 単元の目標

- ・積極的に様々なボール遊びに取り組み、自ら遊び方を見つけたり考えたりして工夫して遊ぶことができる。
- ・腕を伸展させたり、膝を屈伸したり等の姿勢変換をしながらボール遊びをすることができる。
- ・教師や友だちと楽しさを共有・共感しようとする等、他者への意識を豊かにすることができる。

### 7 単元の評価

- ・教師の言葉がけや提示、場の設定に注目し、一定時間集中を持続させてやりきろうとしている。
- ・指導者の促しが無くてもボール遊びをしたり、遊び方を見つけたり考えたりしている。
- ・全身を使ってボール遊びをする中で、腕を伸展させたり膝を屈伸させたり、姿勢変換したりしている。
- ・教師や友だちに視線を向けたり微笑みかけたり、言葉で伝えたりして共有・共感しようとするなど、他者を意識している。

### 8 単元の指導計画(本時1次 9/9時間)

時数	学習活動	評価
第1次 (1～9時間目)	運び活動 (選択・マッチング・箱運び) 型はめ ボール遊び (ボールすくい・ボール転がし・ボール落とし・ボール入れ・ボール飛ばし・ボール投げ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に遊ぼうとする気持ちを引き出せたか。</li> <li>・興味をもった遊びに気持ちを向けて遊び込めたか。</li> <li>・興味をもった遊びの遊び方が分かったか。</li> <li>・しっかり身体を動かして遊べたか。</li> </ul>

第2次 (10～16 時間目)	運び活動 (選択・マッチング・箱運び) 型はめ ボール遊び (ボールすくい・ボール転がし・ボール落とし・ボール投げ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな遊びに関心を示して遊びを広げられたか。</li> <li>・それぞれの設定の遊び方が分かって楽しめたか。</li> <li>・しっかり身体を動かすとともに道具を使おうとしていたか。</li> <li>・遊びを変化させることができたか。</li> <li>・友だちや教師と遊びを共有できたか。</li> </ul>
--------------------	--	---

9 本時の目標

① 全体目標

- ・自らしたい遊びを選んで遊んだり、工夫したり、変化させたりして遊ぶことができる。
- ・いろいろな身体の使い方をしながら遊ぶことができる。

② 個人の目標

児童	個人の目標
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分からボール遊びに興味をもって遊ぶことができる。</li> <li>・それぞれの設定の面白さに気付いて遊び込める。</li> <li>・姿勢変換をしながらボールを転がすことができる。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から好きな遊びを見つけて遊ぶことができる。</li> <li>・ボールが転がったり、飛んだりするおもしろさを教師と共感することができる。</li> <li>・ボールを転がすことで腕を伸ばしたり姿勢を変えたりして遊ぶことができる。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな遊びに指導者を誘ったり、共感を求めたりできる。</li> <li>・物の扱いを通して気付いたことや感じたことを言葉で表現できる。</li> <li>・積極的に道具を使って遊び方を工夫することができる。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな遊びを見つけて積極的に遊び込める。</li> <li>・自分なりに工夫しながら遊ぶことができる。</li> <li>・腕を上げたり、中腰になったりしながら遊ぶことができる。</li> </ul>

10 本時の展開

時間	学習内容	指導上の留意点・指導者の動き	準備物	評価
10:50	①移動 ・椅子を運んで着席  ②あいさつ ・テーマソング ・始まりのあいさつ  ③運び活動 ・絵カード選択 ・箱運び (どうぶつBOX) ・袋出し  ④型はめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・椅子を置く場所を視覚的に示しておく。必要に応じて指導者の言葉がけや指さしで導く。</li> <li>・テーマソングを歌って楽しい雰囲気を作る。</li> <li>・絵カードと箱の絵柄を見比べているかを見る。</li> <li>・ボールの入った袋を受け取り、型はめピースを手渡す。</li> <li>・型はめは、しっかり手元に注目するよう導く。</li> </ul>	児童椅子 型はめパネル 型はめピース 絵カード どうぶつBOX ボール入り袋 ボールケース 回転ドア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の始まりに気付いて気持ちを向けようとしている。</li> <li>・自ら絵カードを選択している。</li> <li>・選択した絵カードと同じ箱を運ぼうとしている。</li> <li>・箱から袋を取り出して教師に手渡そうとしている。</li> </ul>
10:55	⑤ボール遊び ・ボールすくい ・ボール投げ ・ボール飛ばし (ぶんぶんボール) ・ボール転がし& ボール落とし ・ボール入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの順序等は決めず、児童の興味・関心や意欲を大切に、自由に遊べるようにする。</li> <li>・遊びに入りにくい児童には、見立て遊びやゲーム競争等で誘い込んだり、ボールを手渡したりする。</li> <li>・繰り返し遊び込めるよう、十分な量のカラーボールを準備し、必要に応じてボールを集める。</li> <li>・友だちと一緒に遊ぶよう無理に促すことはしないが、自然と同じ場で遊びを共有している時は、教師が仲立ちとなって、指さしや言葉がけで、互いを意識できるようにしたり役割をもてるようにしたりする。</li> </ul>	カラーボール ビニールプール お玉 ペットボトル カゴ ボール飛ばし (ぶんぶんボール) ボール転がし ボール落とし ボール入れ ボール投げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・したい遊びを自ら選んで積極的に遊び込んでいる。</li> <li>・遊び方を見つれたり考えたりしている。</li> <li>・身体を動かして遊ぼうとしている。</li> </ul>
11:15	⑥片付け ⑦振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片付けは音楽で知らせ、児童の実態に応じて量や</li> </ul>	ボールケース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の終わりに気付いて、ボールを集め</li> </ul>

⑧あいさつ ⑨移動	方法を調整する。 ・楽しかったことや頑張ったことを振り返って、達成感や満足感を味わい、次時への期待を高めて終える。	ボール集めの袋 児童椅子	ようとしている。 ・写真カードを選んで、楽しかったことを教師に伝えようとしている。
--------------	--	-----------------	--

11 本時の評価

① 全体の評価

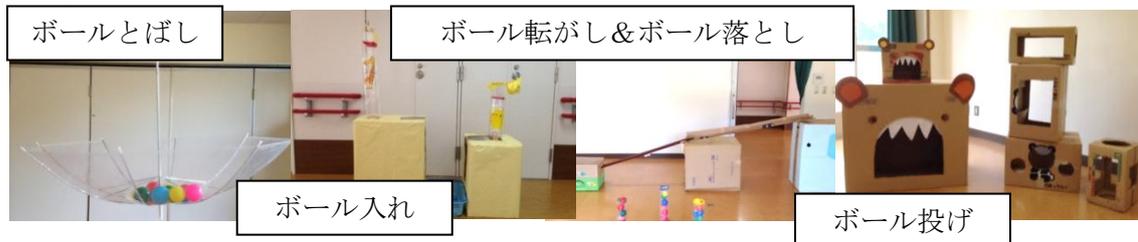
- ・指導者の言葉がけや場の設定に注目し、指導者に促されなくても、やりたい遊びを自ら選んで遊び込んでいる。
- ・遊び方を見つけたり考えたりしている。
- ・姿勢変換をしたり腕を伸ばしたりするなど、いろいろな身体の使い方をしながら遊んでいる。

② 個人の評価

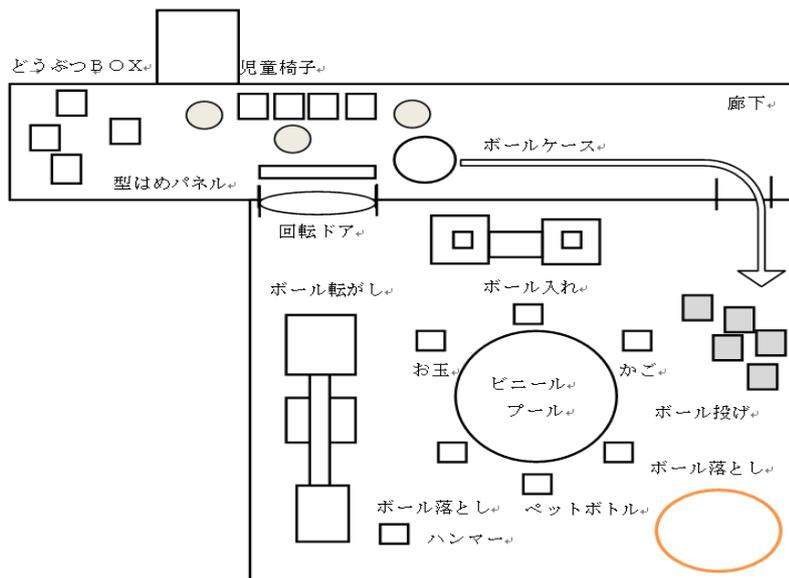
児童	個人の評価
A	・教師の導きがなくても、周囲の状況をよく見て、自ら関わって遊んでいる。 ・ボールを落としたり転がしたり飛ばしたりする等、設定によって遊び方が変わることが分かって積極的に楽しんでいる。 ・しっかり身体を使って遊び、姿勢変換したりボールを転がしたりしている。
B	・好きな遊びを見つけて自分から設定に近づいたりボールに触ったりしている。 ・自分が働きかけることでボールが転がったり飛んだりする楽しさを教師と視線を合わせて共有している。 ・楽しく遊ぶ中で、腕を伸ばしたり姿勢を変えたりしている。
C	・好きな遊びに教師を言葉で誘ったり、視線を合わせて共感を求めたりしている。 ・箱を積み上げた時の高さやボールが落ちる見えやすさ等、気付いたことや感じたことを、相手を意識しながら言葉で表現している。 ・道具を使って上手くボールを落としたり飛ばしたりしようとしている。
D	・好きな遊びを見つけ、自ら設定に働きかけて積極的に遊び込んでいる。 ・すぐに支援を求めるのではなく、やりたいと思ったことを自分でやりきれようと考えて遊んでいる。 ・自分から積極的にボールを扱い、腕を高く上げたり中腰になったりしながら遊んでいる。

12 準備物

児童椅子、絵カード、どうぶつBOX、カラーボール、ポリ袋、パネル、型はめピース、回転ドア、ビニールプール、ビニール傘、ボール投げセット、ボール入れセット、ボール転がしセット、かご、ペットボトル、お玉、ハンマー、ボールケース、ボール集めの袋、CDデッキ、CD



13 配置図



## 授業サンプル④

### 参考資料 教育課程及び指導計画

#### 1 児童生徒の実態（小学部：A・B 1段階）

- ・ トランポリンやブランコ、追いかっこ等、身体を使った遊びが好きである。
- ・ 安心できる大人との関わりを土台に、好きな遊びを通して友だちと場を共有しながら遊ぶこともできる。
- ・ 実物提示、身振りサイン、写真、絵カード等を活用したコミュニケーションやことばでのやりとりができる児童がいる。
- ・ 危険回避が難しい児童や、注意転導で衝動的に走り出す児童もおり、歩行や移動時には安全に十分注意する必要がある。
- ・ 感覚面で極端な過敏性をもつ児童もおり、不適切な感覚遊びや過度の不安・緊張につながらないよう配慮が必要である。

#### 2 教育課程について

	日常生活の指導	遊びの指導	特別活動	自立活動
時間数	665	280	35	175

#### 3 日課表について

1日の見通しをもちやすくするとともに、繰り返しの取組で学習を積み重ねるため、帯状の日課を設定している。

遊びの指導は、児童の興味・関心を基に、期待感や見通しをもって意欲的・主体的に取り組めるよう工夫している。

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導（朝の活動）				
2	自立活動				
3	日常生活の指導（朝の会）				
4	遊びの指導				
給食	日常生活の指導				
5	遊びの指導 （おはなしあそび）	遊びの指導 （からだあそび）	日常生活の指導 （終わりの会）	遊びの指導 （おんがくあそび）	特別活動
6	日常生活の指導 （終わりの会）		/	日常生活の指導 （終わりの会）	

自立活動は、個々の児童の発達段階や興味・関心を考慮しながら、「自立課題」・「対面課題」・「身体を使った活動」に取り組んでいる。

午後は、合同学習を設定し、学級集団を超えた大きな集団で普段の力を発揮できるようにしている。

#### 4 指導計画（例）：遊びの指導

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
とんでけ、ぶんぶんボール		プールであそぼう			ボールであそぼう		身体を使って遊ぼう！	
	にゃ～！おなかですいた!!		わくわくウォーターランド			おはなし遊び		

## 授業サンプル⑤

### 遊びの指導 学習指導案

指導者 \_\_\_\_\_

- 1 対象 小学部〇組 第〇学年〇組〇名
- 2 日時 平成〇年〇月〇日〇曜日 第〇校時 〇：〇～〇：〇
- 3 場所 小〇組教室
- 4 題材名 「はらぺこあおむし」
- 5 児童の実態

本学級は自閉症を併せもつ児童で構成され、A・B 1段階である。自我が芽生え、1歳半の発達の課題に向かいつつある児童から、大人の励ましや意思の疎通をはかることで、自我の拡大を目指す児童までいる。障害特性による認知のアンバランスもあり、人や物への向かい方、理解の仕方については個々への丁寧なアセスメントと手立てが必要である。

遊びの面においては、それぞれ好きな遊びがあり、一人遊びが中心の児童や大人との関わり遊びや友だちと一緒に遊ぶことが好きな児童もいる。様々な遊びを通して、物や道具に向かう力を高め、「やってみよう」という意欲を引き出し、自ら遊び込む力を高めたい。

児童全員が「はらぺこあおむし」の絵本が好きであり、絵本を置いておくと、自然と子どもたちが集まってくる。また、友だちの様子を見て自分もやってみようとする姿や、指導者がやっていることを自分もやってみようとする姿が見られるようになってくるとともに、人への意識や関心が高まり、児童間でも関わり合うようになってきた。

#### 6 単元設定の理由

どの児童も絵本が好きであり、絵本に注目してその話の内容を楽しむことができる。今回は「はらぺこあおむし」の話を中心に据え、授業を構成した。「はらぺこあおむし」を選んだ理由としては、

- ①絵本の彩色が鮮やかであり、児童の注目を引くこと
- ②「食べる」「さなぎになる」「蝶になる」というストーリーの流れが分かりやすいこと
- ③「食べる」という動作は児童にとって分かりやすく、興味・関心を引くこと

の3点である。何度も繰り返し絵本を読むことで、児童自らが絵本のフレーズを口ずさんだり、蝶になるページを、期待感をもって注目したりできるようになってきている。

本授業では、話の流れや展開を踏まえつつ、①絵本の読み聞かせ②食べ物を探しにいこう③蝶になるの3つで構成した。①絵本の読み聞かせでは、「おなかぺこぺこ」という、繰り返される覚えやすいフレーズを聞きながら、児童それぞれが話の流れや展開を楽しめるようにしたい。②食べ物を探しに行く場面では、「どこにあるのだろう」「何が入っているのだろう」という児童の期待感を大切に、体を使い、目的をもって食べ物（に見立てた模型）を探し、探し当てた食べ物をあおむしに食べさせる（ゴールに入れる）といった一連の活動の中で、児童が自ら探しに行こうとする姿を期待している。併せて、「見つけたものをゴールに入れる」という分かりやすい活動の中で、児童一人一人が分かって動くことができるよう、環境設定の工夫も行う。③さなぎから蝶になる場面では、「さなぎの皮をはぐ」「蝶の羽が出てくる」という場面展開の中で、友だちと協力して羽を引っ張る、一緒に蝶になって歩くなど、友だちと共に活動できることをねらう。

上記のねらいを踏まえ、児童一人一人が意欲的に取り組むことができ、かつ分かって動くことができる活動の中で、絵本の世界を大いに楽しむことができるよう、本単元を設定した。

#### 7 単元における個々の児童生徒の実態

氏名	実態
A	2学期から学校生活の大まかな流れに沿って、活動に向かえるようになってきた。1学期は見通しのなさや新しいことへの不安もあり、大人のひざの上に座って過ごすことが多かったが、少しずつ、自ら椅子に着席できる時間が増えてきた。 指導者と共に活動に取り組むことが多いが、プットイン課題等、具体物や目で見て分かりやすい活動については本人が自信をもって活動に向かえる場面が増えてきている。
B	年度当初は新しい環境に対する不安や見通しがもてず混乱する様子も多く見られたが、1学期の後半からは絵カードやスケジュールカードなどを手がかりに、学校生活に見通しをもって活動に取り組めるようになった。 友だちと関わるのが好きで、自ら友だちを遊びに誘うことがある。しかし、一方的な関わりが多いため、指導者が適切な支援や調整をすることが必要である。 絵本の世界を楽しみ、絵本に出てくるフレーズに合わせて声を出すことや、あおむしのパペットに自ら関わろうとすることができる。
C	教師との信頼関係を基盤にし、一つ一つの活動を通して自信をもって活動に向かえるようになってきた。また、指導者だけでなく、学級の友だちや他学級の友だちのことを意識し、同じ遊具と一緒に遊んだり、友だちのしていることを自分もやってみたりするようになってきた。

	遊びでは、ブランコやトランポリン、雲梯等、全身を使って体に感覚面で働きかけるような遊びをすることが好きである。 文字や物の名前に興味をもちはじめ、自分の名前を声に出したり、絵本に出てくる果物の名前を発声したりすることが増えてきた。
D	スケジュールカード等を手がかりにし、見通しをもって学校生活を送ることができる。衝動性が高く、また座位の姿勢を保ちにくいいため、席に座り続けることは難しい。しかし、ブロック遊び、ロボット遊び、絵の具等を使う制作活動等、興味のあるものに対しては、集中して、じっくりと遊びこむことができる。 昨年は一人遊びが多かったが、指導者との関わり遊びも楽しめるようになり、自ら指導者を遊びに誘う場面も増えてきた。

8 単元の目標

- ・「はらぺこあおむし」のストーリーを理解して、簡単なフレーズを口ずさんだり、食べ物の名称を言ったりしてお話に親しむことができる。
- ・自ら考えて食べ物を探索する、さなぎの皮に見立てた新聞紙を破る等のストーリーにそった遊びをすることができる。
- ・食べ物を探したり、蝶に変身して廊下を歩いたり等の遊びを教師や友だちと一緒に楽しむことができる。

9 単元指導計画（本時5次 22/25時間）

次	指導内容	時間	評価の視点
第1次	・絵本の読み聞かせ ・あおむしの人形に食べ物を食べさせる。（ボールを人形の口に入れる）	2	・絵本に注目し、お話を聞くことができる。 ・あおむしに様々な食べ物を食べさせることができる。
第2次	・絵本の読み聞かせ ・マッチング（あおむしの人形に食べさせる果物のマッチング）	5	・絵本に注目し、お話を聞くことができる。 ・食べ物の絵のマッチングをすることができる。 ・あおむしに様々な食べ物を食べさせることができる。
第3次	・絵本の読み聞かせ ・マッチング（あおむしに食べさせる果物のマッチング） ・橋（平均台）を渡って、あおむしの口に見立てたゴールに食べ物模型を入れる。	3	・絵本に注目し、お話を聞くことができる。 ・自分が選択した絵カードと、模型のマッチングができる。 ・ゴールまでの道のりが分かり、模型を入れて戻ることができる。（二点間往復）
第4次	・絵本の読み聞かせ ・マッチング（あおむしの人形に食べさせる果物のマッチング） ・橋（平均台）を渡って、あおむしの口に見立てたゴールに食べ物模型を入れる。 ・さなぎに見立てた新聞紙をはぐ。	5	・絵本に注目し、お話の世界に親しむことができる。 ・自分が選択した絵カードと、模型のマッチングができる。 ・友だちと一緒に、さなぎから蝶に変身する手伝いをするすることができる。 ・さなぎから蝶が出てくることが分かる。
第5次	・絵本の読み聞かせ ・食べ物探し（隠した食べ物を探しに行く） ・さなぎから蝶への変身の手伝いをするとともに、蝶の羽を広げて一緒に飛ぶことができる。 ・蝶になる。（廊下を歩く）	10 (本時)	・絵本に注目し、お話の世界に親しむことができる。 ・自ら食べ物を探しに行き、ゴールに入れることができる。 ・蝶の羽を、友だちと協力して広げて一緒に飛ぶことができる。 ・蝶になって、廊下を歩くことができる。

10 本時の目標

- ・あおむしの人形に興味をもったり、「おなかぺこぺこ」の簡単なフレーズや食べ物を口ずさんだりしてお話を楽しむことができる。
- ・食べ物の隠し場所を予測して、自ら食べ物探しを楽しむことができる。
- ・友だちと協力して、蝶の羽を引っ張って変身をして廊下を歩いて楽しむことができる。

11 個々の児童の目標

氏名	目標	必要な支援
A	・あおむしの人形を手がかりに、絵本に注目することができる。 ・リングに手をかけ、食べ物を引っ張ってとることができる。 ・取り出した食べ物を、あおむしに食べさせてあげることができる。	・絵本に注目しやすいよう座席を見やすい位置にし、注目すべき箇所を明確に示す。 ・食べ物を探す際の目印になるよう、また、食べ物を取り出しやすくするために、食べ物にリングをかけておく。 ・見つけた食べ物とゴールまでの動線を短くする。

B	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本に出てくる「おなかがぺっこぺこ」のフレーズを発声することができる。</li> <li>食べ物を探す、新聞紙を破る、蝶になる、など、具体物を見て自ら分かって活動に取り組むことができる。</li> <li>友だちと協力して羽を広げることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導者が一緒にフレーズを口ずさむと共に、サインやジェスチャーをつける。</li> <li>友だちが見つけた食べ物をゴールに入れようとするため、自ら見つけたもののみ入れることを、絵カードを使って約束する。</li> <li>引っ張る箇所を示し、「うんしょこらしょ」と掛け声をかける。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>あおむしの人形を手がかりに絵本に注目し、お話の世界に親しむことができる。</li> <li>食べ物を探す、ゴールに入れるまでの活動を、一人で取り組むことができる。</li> <li>蝶になって、羽の揺れや感触を楽しむことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本のフレーズを口ずさんだり、手振りを入れたりしながら、お話に注目できるよう言葉かけを行う。</li> <li>隠し場所へのヒントを促し、自分でその場所へ向かえるようにする。</li> <li>蝶の衣装を着ることで蝶のイメージをもたせ、T1と共に羽を動かす。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>お話の世界に親しみ、絵本に出てくる食べ物の名称を言うことができる。</li> <li>食べ物を探す、さなぎを破る、蝶になる等、具体物を見て自ら分かって活動に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本に出てくる食べ物を本人に問いかけると共に、本人が発声しやすい雰囲気を作り、間を取る。</li> <li>場面の設定や具体物を提示し、次の活動へ促す。</li> </ul>

12 展開

過程	学習内容		指導上の留意点		準備物	
	学習内容	児童の学習活動	T 1	T 1 以外		
導入	あいさつ 絵本を読む	<ul style="list-style-type: none"> <li>着席して読み聞かせを聞く。</li> <li>「おなかがぺっこぺこ」の部分を出したり、手振りをしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本を読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Cの隣に座り、絵本に注目できるような支援をする。ともに、「ぺっこぺこ」のフレーズを一緒に口ずさむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Aの隣に座り、絵本に注目できるような支援をする。ともに、「ぺっこぺこ」のフレーズを一緒に口ずさむ。</li> </ul>	絵本「はらぺこあおむし」 あおむしの人形
展開①	食べ物を探しにいく	<ul style="list-style-type: none"> <li>あおむしのパペットと握手をする。(口に手を入れる)</li> <li>「エイエイオー」の合図と共に、隠された食べ物を探しに行く。</li> <li>見つけた食べ物をあおむしの口に食べさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一旦廊下に出て、あおむしと共に再び登場する。</li> <li>児童一人一人に葉をかける。</li> <li>隠された食べ物を探してほいと言葉をかけ、次の活動へ促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が自ら探せるよう、場所の設定を行う。</li> <li>児童が食べ物を探し出せるよう支援する。特にBとともに探す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Aが引っ張るひもへと促す。</li> <li>Aが主体的に手をかけられるよう見守りをして、必要に応じて支援を行う。</li> </ul>	パペット人形 食べ物模型 あおむしゴール ダンボールトンネル あひるプール 机
展開②			<ul style="list-style-type: none"> <li>あおむしのゴールに立ち、児童が食べ物を入れた際に「むしむしや」と言葉かけをする。</li> <li>全員が着席したら、「おなかが痛くなってきた」といって廊下に出る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>探し終わった児童に着席を促す。</li> <li>廊下に去るパペットに注目するよう言葉かけをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>探し終わった児童に着席を促す。</li> <li>廊下に去るパペットに注目するよう言葉かけをする。</li> </ul>	

展開②	蝶になろう新聞を破る 蝶の羽を引っ張る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さなぎに見立てた新聞紙を破る。中から出てきた蝶の羽を引っ張る。</li> <li>・T 2 と廊下からさなぎを運ぶ。</li> <li>・児童と一緒に新聞紙を破る。蝶の羽が出てきたら、身に付けて児童の周りを回る。</li> <li>・児童に羽をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T 1 と廊下からさなぎを運ぶ。</li> <li>・児童と一緒に新聞紙を破る。蝶の羽を引っ張れるよう、引っ張る等箇所を示して支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A が引っ張る箇所まで誘導する。</li> <li>・A が一人で引っ張れるよう支援する。</li> </ul>	さなぎ蝶の羽	
展開③	蝶の衣装を身に付ける 移動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蝶の衣装を着て、廊下を1周する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童と共に廊下に出る。「ちよちよ」の歌を歌いながら歩く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室に残り、片付けを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A が衣装を着られなかった場合は、A が羽を握って廊下を歩けるよう支援する。</li> </ul>	
まとめ	活動の評価 あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室に戻って着席する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の良かった所を褒める。</li> <li>・廊下に去る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T 1 と共に、一人一人のがんばりを褒める。</li> <li>・最後のあいさつを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T 1 とともに、一人一人のがんばりを褒める。</li> </ul>	

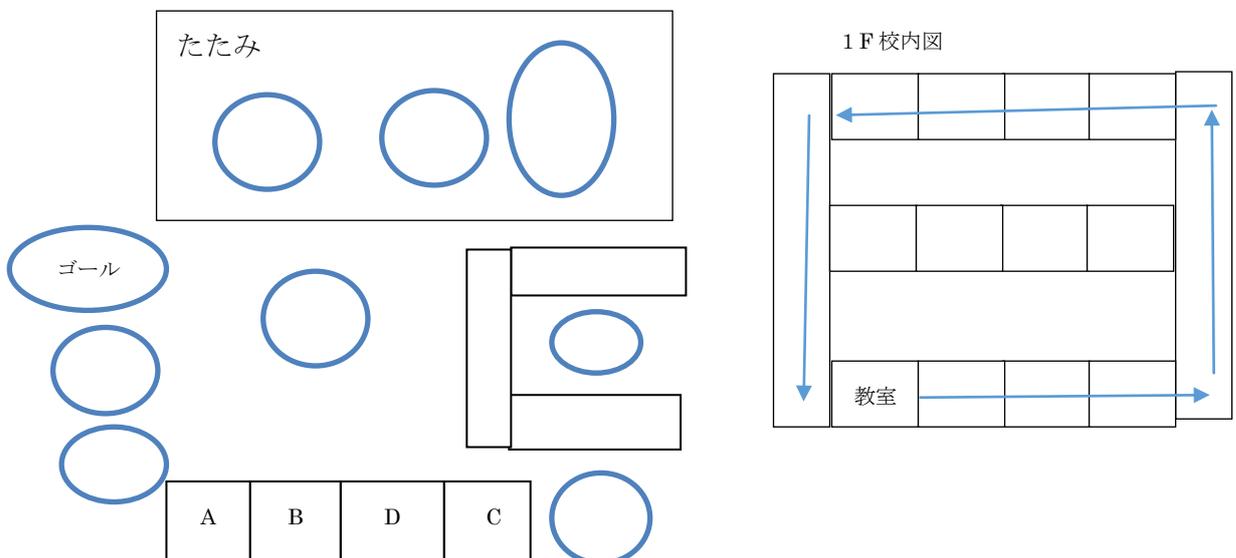
※授業の始まりと終わりに、絵本とあおむしの人形を置いておく。児童が自由に絵本に触れられる時間を取る。

13 本時の評価

氏名	評価の視点
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あおむしの人形を手がかりに、絵本に注目することができている。</li> <li>・リングに手をかけ、食べ物を引っ張ってとることができている。</li> <li>・取り出した食べ物を、あおむしの口に見立てたゴールに入れることができている。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本に出てくる「おなかぺこぺこ」のフレーズを発声することができている。</li> <li>・食べ物を探す、新聞紙を破る、蝶になる等、具体物を見て自ら分かって活動に取り組むことができている。</li> <li>・友だちと協力して羽を引っ張ることができている。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あおむしの人形を手がかりに絵本に注目し、お話の世界に親しむことができている。</li> <li>・食べ物を探す、ゴールに入れるまでの活動を、一人でやり切ることができている。</li> <li>・蝶になって、羽の揺れや感触を楽しむことができている。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お話の世界に親しみ、絵本に出てくる食べ物の名称を言うことができている。</li> <li>・食べ物を探す、新聞紙を破る、蝶になる等、具体物を見て自ら分かって活動に取り組むことができている。</li> </ul>

14 教室配置図

○は食べ物の隠し場所



## 授業サンプル⑤

### 参考資料 教育課程及び指導計画

#### 1 児童生徒の実態（小学部：A・B 1段階）

- ・ 発達の段階に少し幅のある集団であり、一人一人に応じたより丁寧な手立てや支援が必要である。
- ・ 友だちを真似ようとしたり、遊びに誘いかけようとしたりする等、少しずつ他者に関心を向けるようになってきた。
- ・ 絵カードや手順書を使って示すことで、次の学習への見通しをもつことができる。

#### 2 教育課程について

	体育	音楽	図画工作	日常生活の指導	遊びの指導	自立活動
時間数	175	105	70	315	140	140

#### 3 日課表について

低学年であるため、学習に向かう姿勢を作る朝の時間帯(日常生活の指導)を大切にし、からだを目覚めさせ、気持ちを整えるための時間として様々な活動を設定している。

学習を1週間の带状にとる形ではなく、その日その日に異なる学習内容を設定する等の工夫をして、児童が「今日は〇〇の学習の日」という見通しをもって、学習に向かう姿勢を作るよう工夫している。また、児童の集中力等を考慮した日課の工夫をしている。

遊びの指導は、指導内容をお話遊び、調理、学級での取組等、様々な遊びを中心とした取り組みを設定している。

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導（朝の会）				
2	体育	音楽	体育	遊びの指導	体育
3	図画工作	自立活動	音楽	体育	
4	日常生活の指導・給食				
5	遊びの指導	遊びの指導	/	遊びの指導	遊びの指導
6	日常生活の指導・終わりの会				

#### 4 指導計画(例)：遊びの指導

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
はらぺこあおむし 第1部 ・お話の流れを知ろう！ ・あおむし君におやつをあげよう！ ・友だちと協力しよう！				はらぺこあおむし 第2部 ・みんなであおむし君になろう！ （簡単な劇遊び）			秋のおまつり ・「ねずみのいもほり」を読もう！ ・友だちと協力しておいもをほろう！（図工で制作したおいもをつかって）		

## 「生活単元学習」の授業づくりのヒント

「生活単元学習」の要となるのは「主体性」です。

「何を目標にするか」というねらいと合わせて、「どのように子どもたちに学ばせるか」といった子どもたちの活動の質に視点をもった授業づくりが必要です。

「主体性」のキーワードをもって、生活単元学習の授業づくりをするためには、子どもたちのどのような姿をもって、「主体性」と捉えるかが重要なポイントとなります。

興味・関心	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活年齢に応じたキャラクターやストーリーの設定</li> <li>テーマ曲の設定</li> <li>子どもの関心のある内容を「問題」として取り上げたテーマの設定（問題解決学習）</li> <li>どの児童生徒も取り組みやすい学習内容</li> <li>活動を通して獲得する興味・関心 等</li> </ul>
生活に生きる	<ul style="list-style-type: none"> <li>スキルを正確に学ぶ</li> <li>焦点化した確実なスキルの習得</li> <li>獲得したスキルを他の場面でも活用 等</li> </ul>
目標・課題意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間のめあての確認と振り返り</li> <li>時間内に結果が分かる工夫</li> <li>明確な目標と見通し 等</li> </ul>
主体性・共同性	<ul style="list-style-type: none"> <li>ストーリーの流れに熱中するための工夫</li> <li>友だちを意識した活動の設定</li> <li>友だちと協働で取り組まないと成立しない活動の設定</li> <li>教師の距離感とタイミングのよい支援（教師の関わり方の整理）</li> <li>授業の準備・片付け、役割分担の設定</li> <li>児童生徒が得意な活動の設定 等</li> </ul>
活動の組織と生活のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>スモールステップによる活動の構成</li> <li>同じ教材教具の継続的な活用</li> <li>行事やイベントの設定と行事（特別活動）のテーマとの関連 等</li> </ul>
多種多様な経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源の活用</li> <li>単元計画を通じた多種多様な経験の設定 等</li> </ul>

「生活単元学習」の授業づくりにおける、6つの考慮する点を踏まえた授業づくりのヒントは以下の点です。

授業研究から得た「生活単元学習」のヒントと合わせて、以下の3点を考察しました。

### 指導方法の工夫

生活単元学習は、障害による学習上又は生活上の困難の改善を目指すのみの学習ではありません。自立的な生活に必要な事柄を実際的、総合的に学習する指導形態です。

自立的な生活に必要な事柄を、どのように学ばせるかがポイントとなります。「どのように学ばせるか」という視点で考えた時、個々の教育的ニーズに応じた学ばせ方の工夫が必要となります。

### 協働学習

発見学習、問題解決学習、体験学習、グループ・ディスカッション等子どもたち同士が学び合うアクティブ・ラーニングの方法が有効です。

友だちと協働しながら考えることで、子どもたちの学習意欲が向上し、自ら思考したり、判断したりしようとしていきます。

### 学びの焦点化

子どもたちが「やってみよう」と意欲をもつ学習環境の設定は、教育のユニバーサルデザインの視点として進みつつあります。次の段階として「わかった」、「おもしろい」と子どもたち自身が意欲をもてる学習内容の整理が必要となります。

学習内容を焦点化し、子どもたち自身が何を学んでいるのか、何のためにこの学習をしているのかということが理解できる学習内容の整理・焦点化を図りましょう。

授業研究において取り組んだ6つの「生活単元学習」の「授業サンプル⑥～⑪」の学習指導案を紹介します。

これらの学習指導案は生活単元学習のサンプル授業の例です。合わせて、授業に関わる教育課程や指導計画も参考資料として掲載しています。今後の授業づくりに役立ててください。

- 1 対象 小学部 第○学年○名、第○学年○名 計○名
- 2 日時 平成○年○月○日○曜日 第○校時 ○：○～○：○
- 3 場所 体育館
- 4 単元名 北風大王に負けない体を作ろう！—マラソン大会に向けて体づくりをしよう—
- 5 単元設定の理由

(1) 児童観

本学級に在籍する児童は、視覚障害と知的障害等の重複障害があり、発達段階は、A～B 2 段階である。車いすを使用している児童から、走り回れる児童までいる。どの児童も体を動かすことは好きであるが、視覚障害による環境把握の難しさに起因する不安感や恐怖感から、自分から自由に動き回るといった経験が少ない。そのため、思いっきり体を動かしたり、めいっばい活動したりする経験が少なく、すぐに活動を終える傾向がある。また、目で見ても模倣することが困難なことから、体の動かし方やその動きを表す言葉を知っていても、実際の場面では動きが伴わなかったり、ぎこちなかったりする。休み時間には、友だちを誘ってブランコやトランポリンで遊ぶ児童がいる一方、音の鳴る絵本やおもちゃに夢中になり、体を動かして遊ぶことに自分から取り組むことが少ない児童も多い。

コミュニケーションにおいては、話し言葉でコミュニケーションをとる児童もいれば、簡単な単語や身振りで意思を伝える児童もいる。友だちや周囲の人に対しての興味はあるが、コミュニケーションをとったり、一緒に遊んだりするためには、指導者の支援が必要となることが多い。また、行事や物に対しての興味をもちにくく、同じ活動を繰り返す姿も見られる。

児童	実態
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視力は右：○○、左：○○である。安全面の配慮が必要である。</li> <li>・ 見通しをもつことで活動に向かいやすくなる。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視力は測定できないが、ビッグマック程度の大きさで鮮やかな色であれば認識でき、見やすい位置を配慮する必要がある。</li> <li>・ 車いすを使用しており、左手の不自由さがある。指導者の支援で立位や短い距離の歩行が可能である。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視力は右：○○、左：○○であり、両目とも義眼を装着している。</li> <li>・ 言葉から動きをイメージすることが難しい。</li> <li>・ 周囲の様子を伝えたり、音に注目させたりすることで、活動に参加できる。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視力は右：○○、左：明暗が区別できる光覚弁であり、両目とも義眼を装着している。</li> <li>・ 言葉をきいて動きをイメージすることができつつある。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視力は右：○○、左：○○であり、まぶしさを過敏に感じる羞明及び視野障害もある。眩しがる時には、帽子を被らせるなどの配慮が必要である。</li> <li>・ 心疾患のため運動制限がある。動きが伴わなかったり、すぐに動きをイメージしたりすることが難しいが、言葉の意味を多く理解している。</li> <li>・ 聴覚障害のため補聴器を装着している（装着時○dB）。聞き取りにくそうにしている場合は、はっきりと話す等の配慮が必要である。</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視力は右：○○、左：○○である。動いているものを認識することが可能である。</li> <li>・ 言葉に合わせて体を動かしたり、見たり触ったりしたことを模倣することが難しいがダイナミックに体を動かすことができる。</li> <li>・ 感情の起伏が激しい時があるが、自分でコントロールしようとする姿が見られる。</li> </ul>

(2) 教材観

「綱引き」では、「引っ張る」という言葉でも分かるように、自分よりも後ろ方向に体重をかけて引くことができる活動として設定した。日常的に行うことの少ない活動であり、視覚的に模倣をすることができないと、姿勢や力の入れ方が難しい活動である。指導者の体の使い方を触ったり、言葉で説明された動きをイメージして行ったりする活動を繰り返して、力を入れて引っ張る際の姿勢等を理解し、実際に行うことができるようにする。一人で十分に力を入れて引くことができるようになったら、友だちと協力して引っ張る活動を設定する。

「玉運び」では、綱引きとは反対に自分の前方へ力を入れてものを引くことができる活動として設定した。この動きもまた日常的には行うことが少ない活動であり、丁寧に言葉と動きを確認していくことが必要となる動作である。また、箱の重さを調節することで友だちと一緒に引っ張らなければならない場面を設定でき、友だちと一緒に引っ張るために声を合わせたり、その中で相手の動きを感じたりすることができる活動であると考えられる。

「玉投げ」では、北風大王の音源に向かって玉を投げることができる活動として設定した。それぞれ自分なりの動きでは投げることはできるが、早く投げたり強く投げたりするための姿勢をとることは難しい。注目すべき音源を聞いて、その方向へ力強く投げることが知り、実際に行うことができるようにする。また玉入れでは、玉を片付ける活動として設定することで、活動の終息を感じられるようにしたい。

姿勢や動きを触ったり見たりしてイメージをする活動を、第3次ではマラソン大会に向けた「走る・歩く」活動につなげる。

「走る・歩く」活動は、体育や朝のランニングで日常的に行っているが、腕を背中より後ろまで振ることや、膝を上げて動かすことが難しく、美しいフォームで走ったり歩いたりすることには大きな課題がある。そこで、第2次までに行った方法を応用して、姿勢や体の動かし方を確認していく。また、マラソン大会があることで、特にこの時期に目標をもって取り組みやすく、結果を自分で評価しやすいものと考え設定した。

これらさまざまな活動をストーリーとして設定し、「北風大王」というキャラクターを登場させ対戦させる中で、言葉と一致させながら体の動きを学び、自ら体を動かす意欲を高めることができるのではないかと考え、本単元を設定した。

### (3) 指導観

どの活動においても、言葉と動きを一致させ、動きのイメージをそれぞれが持てるように配慮する。そのために、「北風大王」や指導者がとった姿勢を触察したり、見て確認をしたりし、そのことを自分で実際に体を動かしながら確認することができるようにする。また、音楽を使用することで、動きのイメージを高める一つの手立てとしたい。

自分から活動に取り組んだり活動を継続させたりするために、結果だけでなく活動の過程を感じることができるように、教材の配置や言葉がけに配慮をする。また、その中で、友だちと活動する場面を盛り込み、見て動きを合わせるのではなく、かけ声を決めて動きを合わせたり、相手の動きに合わせて動きを調整したりするとよいことを知ることができるよう指導する。そして、友だちにそのような働きかけをすることで活動ができたという達成感を味わえるようにしたい。

### 6 単元の目標

- ・ 友だちと協力しながら「綱引き」や「玉投げ」等の活動をするを通して、「北風大王」と対決することができる。
- ・ 友だちと一緒に「綱引き」や「玉投げ」等の活動に取り組む中で、言葉と動作を一致させることができる。

### 7 単元の指導計画（本時2次 2／8時間）

次	学習活動	目標
第1次 (5時間)	フラフープ、綱引き、丸太運び、玉運び・玉投げ、玉入れ、トンネルを行う。(体育館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の流れを理解して、自ら活動する。</li> <li>・ それぞれの活動での動きを知る。</li> <li>・ 友だちや指導者と関わりながら活動する。</li> </ul>
第2次 (8時間) 本時2/8	綱引き、玉運び・玉投げに重点を置いて行う。(体育館)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見通しをもって、自ら活動する。</li> <li>・ 言葉と動きを一致させ、一つの言葉でも様々な動きがあることを知る。</li> <li>・ 友だちや指導者と関わりながら活動する。</li> </ul>
第3次 (7時間)	走る、歩く活動を行う。(グラウンド)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標を決めて、自ら活動する。</li> <li>・ 言葉と動きを一致させ、走ったり歩いたりする姿勢を知る。</li> <li>・ 友だちや指導者と関わりながら活動する。</li> </ul>

### 8 本時の目標

#### (1) 全体目標

- ・ 「綱引き」、「玉運び」、「玉投げ」の活動に参加する中で、言葉と動きを一致させることができる。
- ・ 「北風大王」との対決に意欲をもち、綱を引っ張る姿勢や力の入れ方等を理解して取り組むことができる。

#### (2) 個人目標

児童	目標
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の流れに見通しをもち、自ら活動に取り組む。</li> <li>・ 綱を握って引っ張ることが分かる。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「北風大王」の登場に期待を高め、自ら綱を引いたり、玉を運んだりする。</li> <li>・ 綱引きに興味をもち、綱を握ったり離したりする。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 場の雰囲気を感じ、友だちがしていることを知り意欲を高める。</li> <li>・ 力を入れて引っ張る姿勢が分かり、模倣することで、「北風大王」と対決する。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周りの音や「北風大王」の言葉がけにより、活動に参加しようとする。</li> <li>・ 力を入れて引っ張る姿勢が分かり、模倣することで「北風大王」と対決する。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言葉と動きを一致させ、かけ声を出して、友だちと動きを合わせようとする。</li> <li>・ 力を入れて引っ張る姿勢が分かり、「北風大王」との対決に意欲をもつ。</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「北風大王」の登場に期待を高め、自ら綱を引いたり、玉を運んだりする。</li> <li>・ 力を入れて綱を引っ張る姿勢が分かり、模倣することで「北風大王」と対決する。</li> </ul>

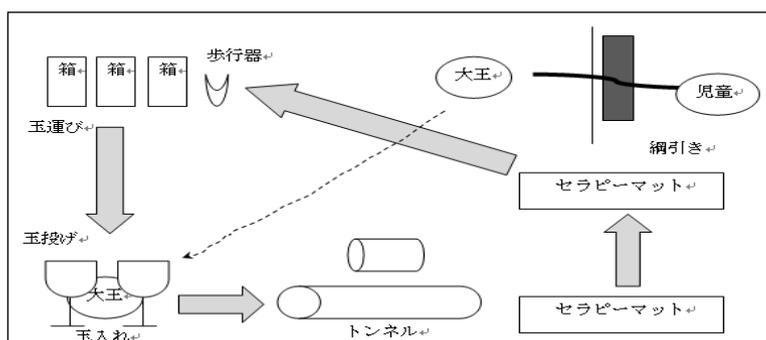
9 本時の展開

時間	学習内容	指導上の留意点	準備物	評価
10:55	1 あいさつ ・テーマソング	・必要に応じて本時の予定を個別に説明する。	セラピーマット(3)	・「北風大王」に興味をもち、活動の見通しをもつことができたか。
	北風大王登場	・テーマソングを歌って、気持ちを高め、見通しをもつことができるようにする。	CD デッキ・CD	
11:00	3 綱引き ・綱を引く姿勢を北風大王の姿勢を触察することで確認する。 ・動きを模倣する。 ・大王と対戦する。 ・対戦をしていない児童は応援をする。	・絨毯は危険ゾーン、ビニールテープに触れた方が負け、綱を離れたら負けというルールを知らせる。 ・足の開き、肘の張り、握る際の掌の向き、体の方向に注目できるようにする。 ・必要に応じて、状況を解説する。 ・箱の重さを調節し、2人で運べるようにする。 ・北風大王に着目させて、その方向へ投げるように促す。	長いひも 絨毯マット(6) セラピーマット(3) 椅子 引き車 CD デッキ CD	・引っ張る時の姿勢を見たり触ったりして、確認をすることができたか。 ・確認した姿勢を実際にとろうとしたか。 ・綱引きの実際場面で、確認した姿勢で引っ張ろうとすることができたか。 ・友だちに声をかけて一緒に活動しようとしたか。 ・音源に向けて玉を投げることができたか。 ・玉を探してカゴに入れることができたか。
11:20	4 箱引き・玉投げ ・箱に入った玉を、北風大王に向かって運ぶ。 ・運んだ児童から、玉を投げる。 5 玉入れ ・玉を全部入れきったらおしまい 6 トンネル	・玉を触って探すことができるように、玉の場所を移動する。	箱(3) 歩行器 玉入れの玉  玉入れのカゴ  トンネル	
11:30	7 がんばり発表 8 あいさつ	・姿勢に気をつけて座るように言葉をかける。		

10 本時の評価

児童	評価項目
A	・見通しをもって、自ら活動に取り組むことができたか。 ・綱を握って引っ張ることが分かり、動作をしようとしたか。
B	・活動への期待を高め、自ら綱に手を伸ばしたり、足を出したりしたか。 ・綱を見て手を伸ばし、握ったり離したりすることができたか。
C	・友だちの活動している音に着目し、友だちがしていることを知ろうとしたか。 ・触察したことを模倣して、力を入れて引っ張る姿勢をとることができたか。
D	・周りの音や言葉がけを聞いて活動を知り、自ら向かおうとしたか。 ・触察したことを模倣して、力を入れて引っ張る姿勢をとることができたか。
E	・自分から声を出して、友だちと動きを合わせようとすることができたか。 ・ことばで力を入れて引っ張る姿勢を説明することができたか。
F	・触ったものから活動を理解して、自分から活動に取り組もうとしたか。 ・力を入れて引っ張る姿勢を模倣し、言葉でポイントを説明することができたか。

11 配置図



## 授業サンプル⑥

### 参考資料 教育課程及び指導計画

#### 1 児童の実態（小学部：B1・B2段階）

- ・ 車いすを使用している児童から、走り回れる活発な児童までいる。
- ・ 簡単な単語や身振りで意思を伝える児童から話し言葉でコミュニケーションできる児童までいる。
- ・ 友だちや周囲の人に対しての興味はあるが、コミュニケーションをとったり、一緒に遊んだりするためには、指導者の支援が必要となることが多い。
- ・ 行事や物に対しての興味をもちにくく、同じ活動を繰り返す姿も見られる。

#### 2 教育課程について

	国語	算数	音楽	体育	図画 工作	生活単元 学習	日常生活の 指導	自立活動
時間数	105	70	70	70	70	175	175	280

#### 3 日課表について

本学級では、毎日2時間目と4時間目に個別課題の時間を設定し、個々に合わせた指導（自立活動/国語/算数）を行っている。

集団学習（生活単元学習等）では、児童の実態や学習内容に応じて、全体で取り組む場合と、学級内で小グループを編成して取り組む場合がある。

生活単元学習は、午後の時間に帯で設定し、児童の実態より、

- ・ 行事に関すること
- ・ 栽培に関すること
- ・ 役割に関すること

の3つの柱で取り組んでいる。

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導				
2	自立活動/国語/算数（個別課題）				
3	体育/音楽/図画工作				
4	自立活動/国語/算数（個別課題）				
5	生活単元学習（水曜日：日常生活の指導含）				
6	生活単元学習・ 日常生活の指導			生活単元学習・ 日常生活の指導	

#### 4 指導計画（例）：生活単元学習

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
		レッツゴー！ 宿泊学習！			レッツゴー！Part2 修学旅行！		北風大王に負けない 体を作ろう！	
	育てよう！夏野菜				サツマイモ食べたいな			
	委員会活動をしよう				委員会活動のプロになろう			
	行事に関すること				栽培に関すること			
							役割に関すること	

- 1 対象 小学部 第○学年（男子○名、○年女子○名）
- 2 日時 平成○年○月○日○曜日 第○校時 ○:○～○:○
- 3 場所 ○年○組教室、○年教室
- 4 単元名 「コンビニエンスストアにレッツゴー！！～好きな物を買に行こう～」
- 5 児童の実態

児童	実態
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知的障害、自閉症、てんかん、感音性難聴(左耳人工内耳：○dB程度)</li> <li>・ 後ろから名前を呼びかけると振り返ることができる。</li> <li>・ 声を出して人を呼ぶことはあるが、音声言語はほぼない。</li> <li>・ 主なコミュニケーション手段は簡単な手話、指文字、絵カード等である。</li> <li>・ 視覚的に理解することが得意で、複雑な立体パズルなども設計図を見ながら組み立てることができる。</li> <li>・ 順番を待つことが苦手なため、待ち時間を減らしたり、別の活動を提示したりする等の支援が必要な場面がある。</li> <li>・ 普段と違う人がいたり状況が変わったりすると、注意喚起が多くなり活動にスムーズに入れないことが多いため、環境の工夫が必要である。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 両耳に補聴器を装着している。</li> <li>・ 主なコミュニケーション手段は口話、簡単な手話、指文字、絵カードである。</li> <li>・ 音声言語でのやりとりはでき、教師からの発信は音声だけでなく手話や指文字なども併用している。</li> <li>・ 学習した言葉はよく覚えていて、実際の場面で使うことができる。</li> <li>・ 視覚的に理解することが得意である。</li> <li>・ ルールや約束なども絵に描いて掲示することで意識できる。</li> <li>・ 先生や友だちを意識して自分から関わりを求めてくることが多い。</li> <li>・ 一つの活動への集中時間が短いため、複数の活動を用意する必要がある。</li> </ul>

自閉症を併せもつ児童生徒のグループである。  
 体を動かしたり、外へ出かけたりすることが大好きで、校外学習に積極的に取り組むことができる。児童はこれまでに、学校周辺へ出かけ、いろいろなお店があることを知った。お店について学習する一環としてお遣い活動を取り入れ、店内にある物の中からメモを頼りに品物を探し、レジでお金を支払う経験を積み重ねた。この活動を通して、児童は店での買い物の大まかな流れをつかみ、お金の受け渡し等もスムーズに行えるようになった。しかしこの活動では、商品や値段は事前に決まっているため、児童が自ら好きな商品を選んだり、お金の準備をしたりということはない。

6 単元設定の理由

本グループの生活単元学習では、主に「買い物スキルの向上」「公共交通機関利用スキルの向上」「生活スキルの向上」「公共施設の利用」を軸にしている。今回は「買い物スキルの向上」にねらいをしばって単元を設定した。

1学期の学習では、買う物が事前に決まっているお遣い活動を行った。その中で児童は買い物の経験を積み、前もってメモを渡すなどの間接的な支援だけでスムーズにお金を支払うことができるようになった。その発展として今回は、「家で食べるおやつを買う」という活動を設定した。この活動は、児童にとって活動の目的が分かりやすいと思われる。また、好きなおやつを選ぶことは魅力的な活動であり、意欲的に取り組めると考える。事前に買いたいお菓子を選び、それに合わせたお金を用意してから実際に買い物へ出かける活動から始め、最終的にはその場でお菓子を選び、財布からお金を出せるようになってほしい。今回はコンビニエンスストアを利用することも目的の一つである。コンビニエンスストアは児童の生活圏内にも多く存在し、今後利用することが多くなると考えられる店舗の一つである。また、コンビニエンスストアはどの店舗も店内の構造が大体同じであるため、一度買い物の流れを覚えてしまえば行くお店が変わっても混乱が少ないと考えられる。児童が自信をもって買い物できるようになることで実生活に生かせる力になると考える。

7 単元の目標

- ・ コンビニエンスストアでの買い物の流れが分かる。
- ・ 複数のお菓子の中から欲しい物を選んで買うことができる。
- ・ 個々の力に合わせてお金を用意することができる。

8 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
おやつを買に行くことが分かり、積極的に活動に参加しようとしている。	複数のお菓子の中から買いたい物を1つ選んでいる。	価格に応じて、必要なお金を用意している。	コンビニでの買い物の流れを理解している。

9 指導計画（本時 7 / 15 時間）

	指導内容	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期に行った町探検の振り返りをする。</li> <li>いろいろな店で売っている物を分類する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな店の種類が分かる。</li> <li>店で売っている商品を分類することができる。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の近くにコンビニエンスストアがあることを知る。</li> <li>コンビニエンスストアの売り場について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パワーポイントから必要な情報を得ることができ</li> <li>きる。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンビニエンスストアへ出かけ、オリエンテーリングをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンビニエンスストアの行き方や売り場が分かる。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンビニエンスストアへお菓子を買に行くことを知る。</li> <li>コンビニエンスストアでの買い物の流れを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンビニエンスストアでの買い物の流れが分かる。</li> </ul>
5 6 7 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>買い物の流れを確認する。</li> <li>教室で買い物の練習をする。</li> <li>① 買う物を選ぶ</li> <li>② お金を用意する</li> <li>③ お店(隣の教室)へ行き、買い物をする</li> <li>ビデオを見て様子を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数のお菓子の中から、買いたい物を1つ選ぶ。</li> <li>価格に応じて、お金を用意する。</li> <li>目的の物だけを手に取る。</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンビニエンスストアで買うお菓子を決める。</li> <li>価格に応じたお金を用意する。</li> <li>買い物の約束を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数のお菓子の中から、買いたい物を1つ選ぶ。</li> <li>価格に応じて、お金を用意する。</li> </ul>
9 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンビニエンスストアへお菓子を買に行く。</li> <li>ビデオを見て、買い物の様子を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メモを手がかりに、目的の物だけをとる。</li> <li>約束を守って買い物をする。</li> </ul>
11 12 13	<ul style="list-style-type: none"> <li>2回目の買い物へ行くことを知る。</li> <li>教室で買い物の練習をする。</li> <li>① 買う物を選ぶ</li> <li>② お店(隣の教室)へ行き、買い物をする</li> <li>③ その場でお金を出す</li> <li>ビデオを見て様子を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数のお菓子の中から、買いたい物を1つ選ぶ。</li> <li>価格に応じて、その場でお金を出す。</li> <li>目的の物だけを手に取る。</li> </ul>
14 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンビニエンスストアへお菓子を買に行く。</li> <li>ビデオを見て、買い物の様子を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メモを手がかりに、目的の物だけをとる。</li> <li>約束を守って買い物をする。</li> </ul>

10 本時の目標

児童	目 標
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数のお菓子の中から、買いたい物を1つ選ぶことができる。</li> <li>価格に合わせて丁度のお金を用意することができる。</li> <li>目的の物だけ手に取ることができる。</li> <li>カードやメモを手がかりにして、買い物をすることができる。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数のお菓子の中から、買いたい物を1つ選ぶことができる。</li> <li>価格を見て、500円玉と5円玉と1円玉で端数をそろえて出すことができる。</li> <li>目的の物だけ手に取ることができる。</li> <li>レジでのやりとりで使う言葉を覚えて使うことができる。</li> </ul>

11 展開

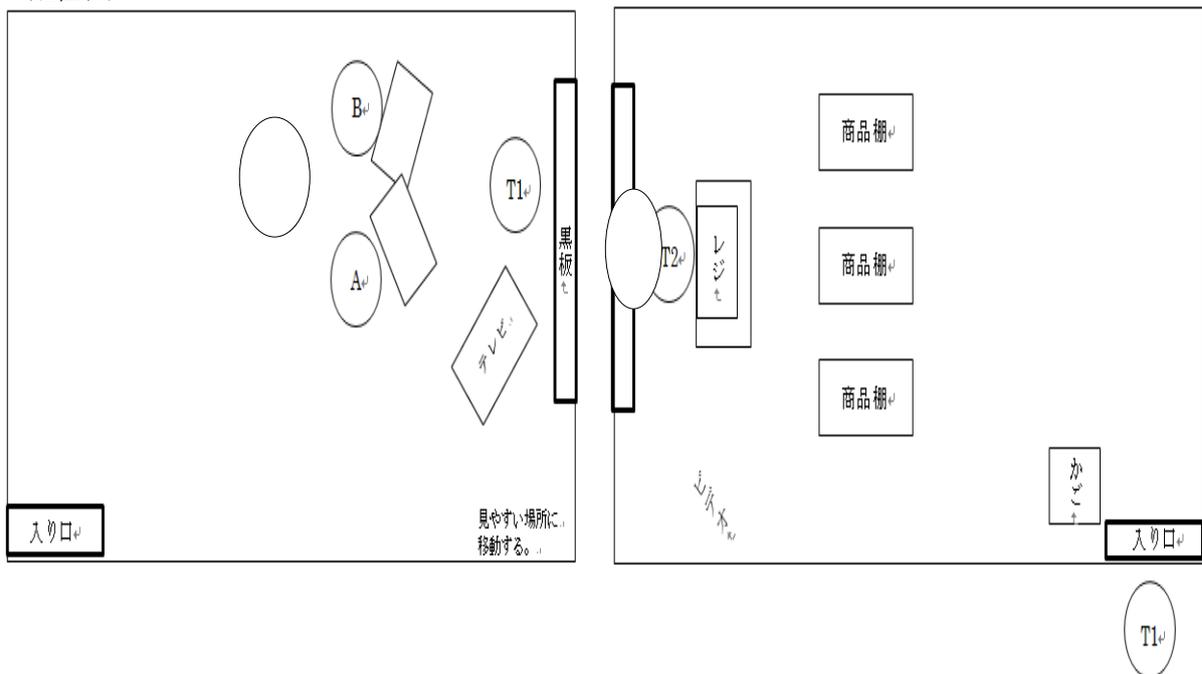
時間	学習内容		指導上の留意点		ツール・準備物
	主たる活動		T1	T1以外	
導入	あいさつ 予定の確認	あいさつをする。 今日の活動内容を知る。 ・テレビを見る ・買い物のれんしゅう ・ビデオを見る めあてを確認する。	活動内容を提示し児童が見通しをもてるようにする。 表にして提示する。(ふりかえりで使用)	児童の意識を前に向けさせる。 A児に個別に活動の流れを提示する。	めあての紙

展開	買い物練習	<p>買い物の流れをパワーポイントで確認する。          複数のお菓子の中から、買いたい物を1つ選ぶ。          個々の実態に応じて、お金を用意する。          A→金額を見て、丁度のお金を用意する。          B→500円玉と5円玉と1円玉で端数をそろえて出す。          (隣の教室に移動)          買い物練習をする。          ①かごをとる          ②メモを手がかりに買う物を探す          ③レジへ行く          ④ジでお金を払う          ⑤レシートをもらう          (おつりがある場合はおつりも)</p>	<p>買い物が早く終わった児童の指導をする。</p>	<p>隣の教室でお店の準備をする。</p> <p>店員の役をする。児童が受け答えに困った場合は掲示の表を見るよう促す。</p>	<p>パソコン          大型ディスプレイ          お菓子の写真          お金</p> <p>買い物の流れの表          (黒板掲示用)          お菓子の箱          値札          レジ          レシート          かご          ビデオ</p>
まとめ	ふりかえり	<p>買い物の様子をビデオで見て振り返る。          めあてに○×をつける。          合格証にシールをもらう。</p>	<p>めあてに沿って買い物の様子の振り返りをする。</p>		<p>めあての紙          合格証          シール</p>

12 本時の評価

児童	評価項目
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数のお菓子の中から、1つだけ選ぶことができたか。</li> <li>価格に合わせて丁度のお金を用意できたか。</li> <li>目的の物だけを手に取ることができたか。</li> <li>カードやメモを手がかりにして、買い物ができたか。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数のお菓子の中から、1つだけ選ぶことができたか。</li> <li>目的の物だけを手に取ることができたか。</li> <li>価格を見て、端数をそろえてお金を用意することができたか。</li> <li>レジでのやりとりの言葉を覚え、使うことができたか。</li> </ul>

13 配置図



# 授業サンプル⑦

## 参考資料 教育課程及び指導計画

1 児童生徒の実態（小学部：B 2・C段階）

- ・ 知的障害に聴覚障害と自閉症を併せもつ児童である。
- ・ 簡単な手話や指差し、視覚的な提示(絵カード等)が主たるコミュニケーション手段の児童である。
- ・ ルールや約束等、視覚的に理解をすることができ、絵や工作等手先を使った活動が好きである。
- ・ 児童からの発信は音声の主であるが、教師からの発信は音声だけでなく手話や指文字等も併用している。
- ・ 普段とちがう状況では、注意喚起が多くなり活動にスムーズに入れにくいことがある。
- ・ 学習した言葉をよく覚え、実際の場面で使うことができる。

2 教育課程について

	国語	算数	生活単元学習	体育	音楽	図画工作	自立活動
時間数	175	175	230	105	60	60	210

3 日課表について

9時から学習が始まるが、その前に毎日 10 分ずつ自立活動の時間を設定している。

生活単元学習は、構成する児童が異なるため、便宜上A、Bと分けている。

日課を分かりやすくするために、1時間目と6時間目は帯状に配列している。

	月	火	水	木	金
朝の会	自立活動(毎日 10 分ずつ)				
1	国語				
2	体育	図画工作	体育		自立
3	生単 A	算数	生単 A	生単 B	生単 A
4		音楽	算数		音楽
5	算数	生単 B	図画工作	算数	
6	自立		/	自立	

4 指導計画（例）：生活単元学習

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
町探検へいこう 買い物、公共交通の利用					おやつを買いに行こう 乗り物に乗ってでかけよう				6年生を送る会に向けて		
					学習発表会に向けて					お手伝いをしよう	
野菜を育てよう					野菜を育てよう			年賀状・郵便ごっこ			
オリエンテーリング					さつまいもパーティーをしよう						まとめ

- 1 対象 高等部 第○学年○組○グループ○名 計○名
- 2 日時 平成○年○月○日○曜日 第○校時 ○:○~○:○
- 3 場所 教室
- 4 単元名 「修学旅行の準備をしよう」
- 5 単元設定の理由

今回の単元は、高等部○年で実施される修学旅行にむけ、宿泊に必要な事柄・活動をまとめた課題単元であり、「その時期の学校生活が充実し豊かになる」「仲間とともにより良く取り組める」「計画を立てて実行する力を育てる」単元として設定した。この単元は、修学旅行の行程が分かり見通しをもって参加できることとともに、行き先の文化等について学んだり、宿泊に必要な生活スキルを学んだりすることによって、より主体的に参加できるようになることをねらう。

生活スキルを学ぶことについては、本校研究部で作成している「つきたいカー一覧表」(○段階)中の、「掃除や片付けなどが、場の状況に応じて判断し行える」「整理整頓ができる」「服装の選択」に基づいている。また、友だちとの共同性(班での話し合いを大切に活動)の視点は、「つきたいカー一覧表」の「集団の中での自分の役割を理解して主体的に活動し、友だちと協力できる力をつける」等に基づくものである。

係会活動は、各生徒が役割(班長、レクリエーション係、しおり係)を選択し担うことで、自分たちの発意から中身を作ったり、他の生徒のことを考えながら当日に向けての準備を進めたりすることができる想定した。

考慮する点として「興味・関心」「生活に生きる」「目標・課題意識」「主体性・共同性」「活動の組織と生活のまとめり」「多種多様な経験」を踏まえた授業づくりを目指す。

本時は、修学旅行の荷物準備を取り上げ、生徒の活動量や主体性、生活に生きる力を育てる観点から、具体物を使っての荷詰め作業を行う。班単位で仲間と一緒に取り組むことで、相談し合いながら進めるコミュニケーションの要素も入った授業にする。

6 生徒の実態

(1) 生徒観

学習課題は様々であり、個別の課題設定が必要な場合もある。自閉症の障害特性が強い生徒も在籍しており、全体指示で動いたり、活動に参加したりする時に個別の配慮を要する。

ほとんどの生徒が、基本的な日常生活動作を行うことができるが、身の周りのことを自主的に行うことに課題のある生徒も多い。片付け、整頓等の生活力が家庭の中で育っていない生徒も散見される。

(2) 個々の生徒の実態

生徒	実 態
A	自分の持ち物に対する確認行動等が多い。
B	見て聞いて覚えることに弱さがある。 アキレス腱を伸ばす手術で半年間入院し杖歩行。手にも少し麻痺がある。
C	聞く力、言語の力の弱さが目立つが、生活の中でのコミュニケーションはスムーズで人間関係は良好である。 手指の操作性が高く、作業等は得意である。
D	不登校による学習経験の不足がみられる。 概念理解ができ言葉の理解力も高いが叙述の力に課題がある。 睡眠リズムが崩れやすい。
E	本人独特の世界があり、対人関係がこじれることがある。 学習には意欲的に向かい、作業が得意である。
F	感情の起伏が大きいがかなりコントロールできるようになってきている。 言語理解の力は高いが、ことばで伝える力には課題がある。
G	人の世話は得意だが、他のことは少しでも自信を失うと恥ずかしさから途端にできなくなる。 衣類などのこだわりもある。
H	生活力があり、経験による学習の積み重ねができる。 昨年は精神的に不安定だったが、今年はほぼ安定しており、何にでも意欲的に向かうことができる。
I	見て操作する力、言葉の力に領域間のアンバランスはない。 右半身に少し麻痺があり、運動機能の取り出し指導を受けている。
J	視覚処理の力が強いが、聞く力が弱い。 人の言葉にすぐ反応する、思ったことをすぐ口に出す等の転導性・衝動性が見られる。

K	視覚処理や見て覚える力はかなり高い。 聞く力、言葉を駆使して伝えることに弱さがある。
L	見て操作する力より言葉の力が強く、領域間のアンバランスがある。 シンプルな言葉で伝えると理解しやすい。
M	自閉症の特性が強く、色などに強いこだわりが見られる。 授業の事前予告を丁寧に行うことが必要である。
N	自閉症の特性や不安が強く、見て分かるスケジュール・評価や授業の参加の仕方の交渉等 個別的な配慮が必要である。 授業の事前予告を丁寧に行うことが必要である。
O	数的処理の力は強いが、言語概念、視覚処理の力が相対的に弱い。
P	見て覚えることが得意である。 不登校で、今年度は数回しか登校できていない。

7 単元の目標

- ・修学旅行へ向けての見通しと期待をもつ。
- ・係会活動で、〇年生のみんなを意識しながら主体的に準備を進めることができる。
- ・修学旅行と関わって、実生活に生きるスキルを身に付ける。

8 指導計画 (本時 第3次 7/8時間)

第1次 (6月)	〇年生集会① 概要説明、班の発表、役割分担		〇年生集会② しおりを見ながら、行程と持ち物の説明
第2次 (7月 ~10月)	係会① 各係での話し合い・計画	第3次 (10月)	事前学習 修学旅行クイズ
	係会② 各係での準備活動		事前学習 (本時) 荷物準備、荷物管理
	係会③ 各係での準備活動	第4次 (10月)	〇年生集会③ 全体での修学旅行まとめ

9 本時の目標

(1) 全体目標

- ・荷物準備、物の管理の仕方を学ぶことで、より主体的に修学旅行に向かえるようにする。
- ・各班で、荷物準備がスムーズにいくように話し合いながら、作業を進めることができる。

(2) 個人目標

生徒	個人の目標
A	荷物の準備を事前に経験することで、見通しをもって当日に向かうことができる。
B	衣服を畳む活動で、シワにならないように工夫することができる。
C	求められた活動内容を理解し、自主的に活動に参加することができる。
D	畳む、収納することを要領よくできるように工夫することができる。
E	班活動に積極的に参加して、相手と折り合いをつけながら作業を進めることができる。
F	班活動を中心にリードして進めることができる。
G	対人的な関わりが得意な面を活かして、班をまとめることができる。
H	全体のペースに合わせて、スムーズに振り返り記入ができる。
I	しおりを見て、1つ1つ入れる物を確認することができる。
J	周囲のペースを意識して、作業を進めることができる。
K	班の中の他の人と協調して活動することができる。 積極的に活動に加わることができる。
L	衣服のたたみ方・入れ方を、他の人がするのを見て学ぶことができる。
M	高い生活の力を発揮して、活動に安定して参加することができる。
N	授業内容を理解し、安心して取り組むことができる。
O	どうすれば要領良く荷物が入れられるか工夫して取り組むことができる。
P	班の人と一緒に場で、活動に参加できる。

10 本時の展開 キーワード：活動量、具体的操作、視覚支援、チームティーチング、生徒の主体性

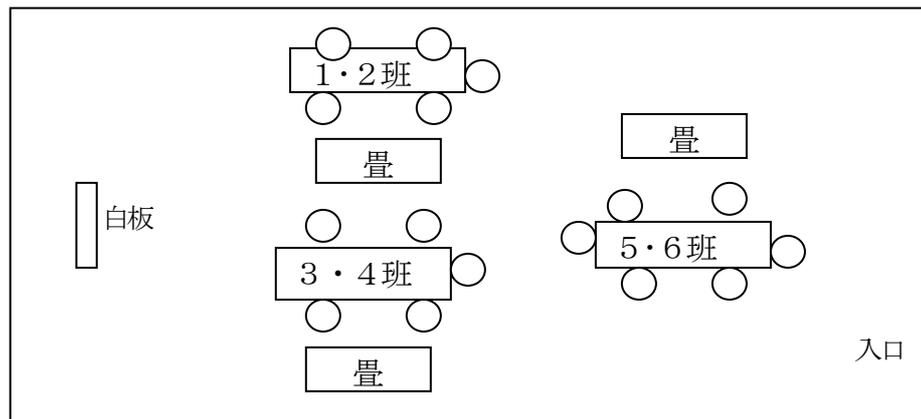
時間	学習内容	指導上の留意点 指導者の動き	教材・教具	評価
9:30 <導入> 9:35	①机と椅子を自分たちで並べる。 ②始めのあいさつ ③本時の目標を知る。 ・修学旅行の荷物準備をしよう。	※生徒の様子を記録 席の配置を白板に書く。 3つの班 (1・2班、3・4班、5・6班) 号令—11組日直  目標の「今日のポイント」	修学旅行しおりを持参させる。  目標の「今日	自分たちで積極的に準備、片付けができるか  白板の紙に注目

<p>&lt;展開&gt; 9 : 4 5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班で話し合い、協力して作業しよう。</li> <li>④「今日のポイント」を知る。</li> <li>・班のメンバーで協力して進める。</li> <li>・しおりを使う（見て確認）。</li> <li>・使う順番を考えて入れる。</li> <li>・入れる場所を考える。（小さいもの・大きいもの）</li> <li>・衣類は、「シワにならない・コンパクト」</li> <li>・教えてほしいことがあった時は、周りの先生を呼んで質問をしても良い。</li> <li>⑤各班で荷詰め作業をする。</li> </ul>	<p>を書いた紙を白板に貼る。</p> <p>しおりについては、「自分で準備できる人は、なるべく自分でしましょう」の記述について言及する。</p> <p>しおりで確認しながら自分たちで作業を進める。</p> <p>衣類のたたみ方、カバンへの入れ方等質問があった時には、具体的にやり方を教える又はヒントを与える。その時に応じて判断する。 ※過干渉にならないように留意する。</p> <p>ワークシートを1人1枚配布する。</p>	<p>のポイント」を書いた紙</p> <p>旅行カバン リュック 衣服等中に入れる物（3セット）</p> <p>振り返りワークシート</p>	<p>し、話を聴けているか 全体説明の中身を理解できているか</p> <p>しおりを手がかりにしながら作業を進めているか。 入れ方（入れる場所）は適切か。 衣類のたたみ方は適切か。 集団の中での自分の役割を理解して主体的に活動し、友だちと協力できているか。 自分自身の活動を振り返れたか。 →実際の生活場面で活かせるか。</p> <p>お互いの気持ちを共感し合うことができたか。</p>
<p>&lt;まとめ&gt; 1 0 : 0 5</p>	<p>⑥振り返りワークシート記入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班で工夫したこと</li> <li>・難しかったこと</li> <li>・うまくいったと思うこと</li> </ul>	<p>各班1人指名して発表する。</p> <p>今日の学びを旅行の準備に活かすよう伝える。</p> <p>今日の全体評価をする。</p> <p>号令—〇組日直</p>		
<p>1 0 : 1 0</p>	<p>⑦振り返りの発表</p>			
<p>1 0 : 1 5</p>	<p>⑧まとめ</p>			
<p>1 0 : 2 0</p>	<p>⑨終わりのあいさつ 机と椅子を自分たちで片付ける。</p>			

11 本時の評価

- ・授業内容について理解し、主体的に活動することができる。
- ・班の友だちと協力して、荷物準備の作業を進めることができる。
- ・自分自身の活動を振り返ることができる。

12 配置図



## 授業サンプル⑧

### 参考資料 教育課程及び指導計画

#### 1 児童生徒の実態（高等部：B 2・C・D段階）

- ・ 発達段階が幅広く、自閉症や肢体不自由を併せもつ生徒である。
- ・ 聞く力、言語の力の弱さが目立つが、生活の中でのコミュニケーションはスムーズで人間関係は良好である。
- ・ 手指の操作性が高く作業等は得意な生徒や、右半身に少し麻痺のある生徒がいる。
- ・ 独特な言い回しにはなるが、言語理解・表出の力が高い生徒や、言葉を駆使して伝えることに弱さがある生徒等がいる。
- ・ シンプルな言葉で伝えると理解しやすく、スケジュール・評価や授業参加の仕方の交渉等、個別的な配慮の必要な場合がある。

#### 2 教育課程について

	国語	数学	音楽	保健体育	家庭	日常生活の指導	作業学習	特別活動	自立活動	総合的な学習の時間
時間数	40	40	68	68	66	271	243	132	35	80

#### 3 日課表について

本学級では、1、2校時に全身運動あるいは手先を動かす運動の時間を設定し、覚醒状態を整えた上で教科等の学習に向かえるようにしている。

週2日間の作業学習を設定し、進路に向けた取り組みにグループ全体として力を入れている。

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導				
2	特別活動	自立活動	特別活動	作業学習	特別活動
3	保健体育	国語	総合的な学習の時間	作業学習	美術
4		数学			
5	音楽	作業学習	/	作業学習	家庭
6	日常生活の指導			日常生活の指導	
	部活動			部活動	

#### 4 指導計画（例）：生活単元学習

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	役割をみんなで決めよう！				修学旅行先の文化、お土産		修学旅行をふりかえろう！	
					何をしにいくの？ マナーや行動			

- 1 対象 高等部 第○学年○組○名、第○学年○組○名 計○名
- 2 日時 平成○年○月○日○曜日 第○校時 ○：○～○：○
- 3 場所 会議室
- 4 単元名 「電車でゴー」
- 5 単元について

本学習グループは発達年齢がB2、C段階と幅広く、また自閉症6名を含む集団である。教科学習や学級での取組は○名の集団だが、本単元では○学級合同の取組となり、より大きな集団の中での活動として計画している。

出かけることや乗り物が好きで興味はあるが、自分で行き先を決めたり、行動したりすることに自信がなく、受け身的である。また、場面が変わったり、関わる相手が変わったりすると緊張や不安が大きくなり、行動が止まることがある。

そこで、「自分で電車に乗って、行きたいところに行く」という目標で学習を進め、切符を購入するときに1人で駅員とやりとりをしたり（1人で運賃表を見て券売機で購入したり）、自分たちで行きたい場所を決め、電車を使って目的地に行ったりすることで達成感や自信を付けていきたいと考えた。

切符の購入など1人でやりきる場面と、班で話し合っ行って行き先を決めたり、役割分担をして発表の準備をしたりする場面を意図的に設定することで、自分で行動する力や周りを意識して行動する力をつけていきたい。

6 単元の目標

- (1) 行き先や分からないことなど、相手に自分から思いを伝える。
- (2) 自分の役割を理解し、進んで仕事に取り組むことができる。
- (3) 班の中で自分の意見を言ったり、友だちの意見を聞いたりする。
- (4) みんなの前で大きな声で発表する。

※本校つけたい力表より、以下の力をつけることを意識して授業を行う。

<b>基本的な生活習慣</b>	<b>健康に生きる</b>	<b>伝える・きく</b> ・自分の思いを人に伝える。 ・相手の話を最後まで聞く。 ・体験したことを感想を交えながら伝える。 ・したいことを自分で決定して伝える。 ・困ったことを伝え、助けを求める。
<b>人とのかかわる</b> ・自分の良さや苦手なことに気付く。 ・周りの人を見て行動する。 ・人の気持ちや思いを考える。 ・多様な集団の中で友だちと協力して活動する。	<b>学ぶ・はたらく</b> ・学習規律を守る。 ・進んで自分の役割を果たす。 ・分からないことを聞く。 ・予定を見て、活動の流れが分かり、自分で行動する。	<b>地域で暮らす</b> ・いろいろなことを経験し、興味関心をもてることを増やす。 ・必要に応じて適切な社会資源を利用する。 ・社会生活の基礎となるルールやマナーを守る。 ・必要に応じて周りの協力を得て公共交通機関を利用する。

7 単元指導計画（本時 第3次 30/32時間）

	指導内容	時間	学習内容及び指導のねらい
第1次	人との上手な関わり方	第1、2時	・上手なあいさつ（大きな声、相手の顔を見る、自分からする、頭を下げる）をすることができる。
		第3、4時	・丁寧な言葉遣いでやりとりができる。
		第5時	・身だしなみを整える。
第2次	電車の乗り方 切符の買い方	第6、7時	・電車に乗る一連の流れを理解する。 ・設定された場面から、質問の仕方を理解したり考えたりすることができる。
		第8、9時	・切符を買う一連の流れを理解し、行程表を作る。 ・行きたい場所を伝え、切符を自分で買うことができる。
	校外学習事前、本番	第10時	・校外学習の内容や目標を理解することができる。 ・公共のマナーを理解したり、金銭のやりとりを練習したりする。
		第11～13時 （半日取組）	療育手帳A：行きたい場所を駅員さんに伝え、切符を買う。 療育手帳B：券売機で値段を確認して切符を買う。

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗る電車を駅員さんに質問する。</li> <li>・公共のマナーや約束を守って行動することができる。</li> </ul>
第3次	おでかけ計画を立てる	第14～17時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班で話し合っ、行く場所を決めることができる。(見本を見ながら、行く場所の地図を作ることができる。)</li> <li>・班で協力してしおりを作ることができる。</li> <li>・自分の仕事に責任をもってやりきることができる。</li> </ul>
	電車の乗り方、切符の買い方の課題別練習	第18～20時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回校外学習の電車の乗り方、切符の買い方に関する課題を理解し、改善に向けて練習をする。</li> </ul>
	校外学習事前学習本番	第21時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外学習の内容や目標を理解することができる。</li> <li>・公共のマナーを理解したり、金銭のやりとりを練習したりする。</li> </ul>
		第22～27時(1日取組)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・療育手帳A：行きたい場所を駅員さんに伝え、切符を買う。</li> <li>・療育手帳B：券売機で値段を確認して切符を買う。</li> <li>・乗る電車を駅員さんに質問する。</li> <li>・しおりや地図を見ながら班で行動する。</li> <li>・班で役割分担し、行った場所の写真を撮ることができる。</li> </ul>
発表会の準備発表会をする	第28～32時(本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行った場所の写真を貼ったり、おすすめポイントを書いたり、班で役割を決めて自分の仕事に責任をもってやりきることができる。(切符の買い方の一連の流れを自分たちの写真を使って表にする。)</li> <li>・自分たちが切符を買っている動画を見て、自分や友だちの良いところを探す。(友だちの良かったところを基に電車マスターの賞状作りをする。)</li> <li>・みんなの前で大きな声で発表することができる。</li> </ul>	

※授業内容によって、全体とグループ別(知的障害グループと自閉症グループ)の学習形態をとる。上記表の( )は自閉症グループの学習内容及び指導のねらいである。

#### 8 本時の目標

	生徒名	本時の目標
Aグループ	a	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の中の役割(司会係)を理解し、進行表を見ながら班の活動を進めることができる。</li> <li>・自分や友だちの良いところを4つのポイントの中から選びワークシートに記入することができる。</li> <li>・班の中で自分の意見を大きな声で発表できる。</li> <li>・自分や友だちの良いところが分かり、互いに評価できる。</li> </ul>
	b	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の中の役割(発表係)を理解し、班の意見を全体の前で大きな声で発表することができる。</li> <li>・自分や友だちの良いところを4つのポイントの中から選びワークシートに記入することができる。</li> <li>・班の活動に集中し、自分の順番を守って発表できる。</li> <li>・自分や友だちの良いところが分かり、互いに評価できる。</li> </ul>
	c	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の中の役割(集計係)を理解し、友だちの意見から一番多かった意見を選び、班の意見を決定できる。</li> <li>・自分や友だちの良いところを4つのポイントの中から選びワークシートに記入することができる。</li> <li>・班の中で自分の意見をみんなに聞こえる声で発表できる。</li> <li>・自分や友だちの良いところが分かり、互いに評価できる。</li> </ul>
Bグループ	d	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の中の役割(司会係)を理解し、進行表を見ながら班の活動を進めることができる。</li> <li>・自分や友だちの良いところを4つのポイントの中から選びワークシートに記入することができる。</li> <li>・班の中で自分の意見を大きな声で発表できる。</li> <li>・自分や友だちの良いところが分かり、互いに評価できる。</li> </ul>
	e	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の中の役割(発表係)を理解し、班の意見を全体の前で大きな声で発表することができる。</li> <li>・自分や友だちの良いところを4つのポイントの中から選びワークシートに記入することができる。</li> <li>・班の中で自分の意見を台本を使いながら大きな声で発表できる。</li> <li>・自分や友だちの良いところが分かり、互いに評価できる。</li> </ul>
	f	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の中の役割(集計係)を理解し、友だちの意見から一番多かった意見を選び、班の意見を決定できる。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友だちの良いところを4つのポイントの中から選びワークシートに記入することができる。</li> <li>・班の中で自分の意見を大きな声で発表できる。</li> <li>・自分や友だちの良いところが分かり、互いに評価できる。</li> </ul>
	g	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の中の役割（集計係）を理解し、友だちの意見から一番多かった意見を選び、班の意見を決定できる。</li> <li>・自分や友だちの良いところを4つのポイントの中から選びワークシートに記入することができる。</li> <li>・班の中で自分の意見を大きな声で発表できる。</li> <li>・自分や友だちの良いところが分かり、互いに評価できる。</li> </ul>
	h	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の中の役割（発表係）を理解し、班の意見を全体の前で大きな声で発表することができる。</li> <li>・自分や友だちの良いところを4つのポイントの中から選びワークシートに記入することができる。</li> <li>・班の活動に集中し、自分の順番を意識して発表できる。</li> <li>・自分や友だちの良いところが分かり、互いに評価できる。</li> </ul>
C グループ	i	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の中の役割（司会係）を理解し、進行表を見ながら班の活動を進めることができる。</li> <li>・自分や友だちの良いところを4つのポイントの中から選びワークシートに記入することができる。</li> <li>・班の中で自分の意見をはっきりとした言葉で発表できる。</li> <li>・自分や友だちの良いところが分かり、互いに評価できる。</li> </ul>
	j	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の中の役割（発表係）を理解し、班の意見を全体の前で大きな声で発表することができる。</li> <li>・自分や友だちの良いところを4つのポイントの中から選びワークシートに記入することができる。</li> <li>・班の中で自分の意見を大きな声で発表できる。</li> <li>・自分や友だちの良いところが分かり、互いに評価できる。</li> </ul>
	k	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の中の役割（集計係）を理解し、友だちの意見から一番多かった意見を選び、班の意見を決定できる。</li> <li>・自分や友だちの良いところを4つのポイントの中から選びワークシートに記入することができる。</li> <li>・班の中で自分の意見を友達に伝えることができる。</li> <li>・自分や友だちの良いところが分かり、互いに評価できる。</li> </ul>
	l	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の中の役割（集計係）を理解し、友だちの意見から一番多かった意見を選び、班の意見を決定できる。</li> <li>・自分や友だちの良いところを4つのポイントの中から選びワークシートに記入することができる。</li> <li>・班の中で自分の意見を大きな声で発表できる。</li> <li>・自分や友だちの良いところが分かり、互いに評価できる。</li> </ul>
	m	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の中の役割（発表係）を理解し、班の意見を全体の前で大きな声で発表することができる。</li> <li>・自分や友だちの良いところを4つのポイントの中から選びワークシートに記入することができる。</li> <li>・班の活動に集中し、自分の順番を意識して発表できる。</li> <li>・自分や友だちの良いところが分かり、互いに評価できる。</li> </ul>
D グループ	n	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やりたい作業を自分で選択することができる。</li> <li>・自分の役割を理解し、作業を最後までできる。</li> <li>・自分や友だちの良いところを理解することができる。</li> </ul>
	o	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やりたい作業を自分で選択することができる。</li> <li>・自分の役割を理解し、作業を最後までできる。</li> <li>・自分の良いところを理解することができる。</li> </ul>
	p	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やりたい作業を自分で選択することができる。</li> <li>・自分の役割を理解し、作業を最後までできる。</li> <li>・自分の良いところを理解することができる。</li> </ul>
	q	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やりたい作業を自分で選択することができる。</li> <li>・自分の役割を理解し、作業を最後までできる。</li> <li>・自分の良いところを理解することができる。</li> </ul>
	r	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やりたい作業を選択し、自分で伝えることができる。</li> <li>・みんなに渡す賞状作りをしていることが分かり、自分の役割を理解して作業を最後までできる。</li> <li>・自分や友だちの良いところを理解し、伝えることができる。</li> </ul>

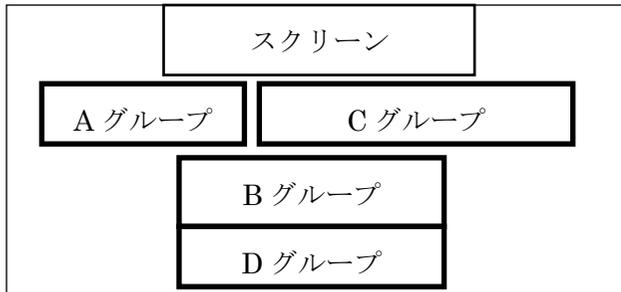
9 本時の展開

時間	学習内容	指導上の留意点		評価
		T 1	T 1以外	
9:40	<p>1 あいさつをする。</p> <p>2 本時の内容と目標を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて</p> <p>① 第2回目校外学習の切符購入の画像を見て、自分や友だちの良いところを探そう。</p> <p>② 友だちの良いところを発表しよう。(電車マスターの賞状を作ろう)</p> </div>	<p>前を注目できるように画像や効果音を使用する。</p> <p>発表会を意識して本時の活動に意欲がもてるように、視覚教材を用い具体的に説明をする。</p> <p>作業の手順を視覚的に説明する。</p>	<p>生徒の姿勢や話を聞く態度をみて、適宜言葉がけをする。</p> <p>Dグループの生徒がスクリーンと手元の資料を見て要点を確認できるようにする。</p>	<p>本時の内容を理解し、発表会に向けての見通しをもつことができたか。</p>
9:50	<p>3 グループに分かれて活動をする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>ABCグループ 画像を見て、自分や友だちの一番良かったポイントを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割を確認する。</li> <li>・画像を見て、良かったポイントに○をつける。</li> <li>・班の中で自分の意見を発表する。</li> <li>・一番良かったポイントを班で1つに決める。</li> </ul> <p>以上を班の人数分繰り返す。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>Dグループ 自分や友だちの画像を見て、良かったポイントを知る。</p> <p>電車マスターの賞状(○人分)を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がやりたい作業を選ぶ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>選択作業</p> <p>①電車の絵に色を塗る→電車の絵を線に沿って切る。</p> <p>②認定証と乗り方カードを台紙に張る→ポイントカードを切ったり、名前を書いたりする。</p> <p>③選択した作業をする。</p> </div> </div> </div>	<p>班の活動場所を明確に説明する。</p> <p>Cグループに主に入りながら、全体の言葉がけをする。</p> <p>Cグループの生徒の意見を視覚的に示し、話し合いがスムーズに行えるようにする。</p> <p>早くできた班は電車の乗り方の追加プリントに取り組むよう指示をする。</p>	<p>自分が担当するグループの場所に先に立ち場所を示す。</p> <p>ABCグループ 班長が台詞シートを使いながら話し合いを進められるようにする。</p> <p>生徒の意見を視覚的に示し、話し合いがスムーズに行えるようにする。</p> <p>Dグループ 作業の説と生徒が意見を言ったり、作業したりしやすいように言葉がけをする。</p> <p>良かったポイントについて視覚的に各生徒に伝え、評価する。</p> <p>自分がしたい作業を選択できるように作業内容を具体的に説明する。</p>	<p>ABCグループ 自分の仕事を理解し、班の中で果たすことができたか。</p> <p>自分や友だちの良いポイントを探し、ワークシートに記入できたか。</p> <p>班の中で自分の意見を発表することができたか。</p> <p>Dグループ 自分がやりたい仕事を選ぶことができたか。</p> <p>自分の仕事が分かり、作業ができたか。</p>

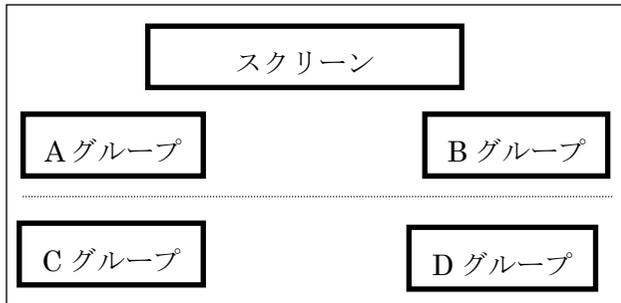
10:15	切符の買い方でよかったところを班ごとに発表する。	各班の発表係の生徒は前に来るように言葉がけをする。  発表係の生徒がスムーズに発表できるよう言葉がけをする。  班の発表ごとに拍手して、がんばりを評価する。	スクリーンを使いながらDグループの友だちの良かったポイントを発表する。  発表に合わせてパワーポイントを動かして、良かったところが視覚的に分かるようにする。	大きな声で発表することができたか。  自分や友だちの良いところを理解し、お互いに評価することができたか。
10:25	次回の内容を知る。	発表会を意識させながら、次回の内容を説明する。	前を注目できるように言葉がけをする。	
10:30	あいさつをする。	姿勢を正し全員であいさつができるように言葉かける。		

10 配置図

全体説明、発表時



グループ別学習



11 ワークシート

Aグループ

じぶん や ともだちの いいところ をさがそう 

友だちのいいところをさがそう。1つえらびましょう。

 ねだんをかくにんする	 おかねをいれる	 きっぷをとる	 ボタンをおす	がよかったです。
---	---	--	--	----------

BCグループ

じぶん や ともだちの いいところ をさがそう 

友だちのいいところをさがそう。1つえらびましょう。

いきたいえきをいう	てちょうをみせる	おかねをだす	きっぷをもらう おれいをいう	がよかったです。
-----------	----------	--------	-------------------	----------

# 授業サンプル⑨

## 参考資料 教育課程及び指導計画

1 児童生徒の実態（高等部：B1・B2・C段階）

- ・発達段階が幅広く、自閉症の生徒も多い集団である。
- ・教科学習や学級での取組は〇名の集団だが、生活単元学習では〇学級合同のより集団で活動している。電車や電車に乗って出掛けることが楽しみで興味をもっている。
- ・やりたい気持ちはあるが、自信がなく、自分から行動したり発信したりすることに時間がかかる生徒が多い。
- ・場面が変わったり、関わる相手が変わったりすると緊張や不安が大きくなり、行動が止まってしまう生徒がいる。
- ・人との関わりにおいては自分の思いが中心であり、友だちを思いやることや、周りを見て行動すること等については支援が必要である。

2 教育課程について

	国語	数学	音楽	保健体育	家庭	日常生活の指導	生活単元学習	作業学習	特別活動	自立活動	総合的な学習の時間
時間数	64	64	32	32	64	384	64	64	64	245	32

3 日課表について

生活単元学習は、週2時間設定し、継続的に指導を行っている。

学習した内容が定着しやすいように火、木曜日とし、授業と授業の間隔が空き過ぎないように日課を工夫している。

また、活動によっては連日で時間を設定したり、1日かけての校外学習を実施したりと日課の工夫をしている。

	月	火	水	木	金	
1	日常生活の時間					
2	自立活動			生活単元学習	自立活動	
3	音楽	生活単元学習	数学	自立活動	家庭	
4	国語	数学	国語	体育	家庭	
	日常生活の時間		/	日常生活の時間		
5	作業学習	作業学習		総合的な学習の時間	特別活動	
6	自立活動			自立活動		
7	日常生活の時間			日常生活の時間		

4 指導計画（例）：生活単元学習

4月	5月	6月	7月
「人との上手な関わり方」コミュニケーション学習身だしなみ	「電車の乗り方の練習」行きたい駅を伝える分からないことを質問する手帳を見せる、支払いをするなど切符を買う一連の行動の練習	第1回校外学習 「行きたい場所を班ごとに決める」 「電車の乗り方の練習」第1回校外学習を踏まえ、班ごとに課題別練習をする	第2回校外学習 「電車の乗り方のまとめ」良いところをまとめてスライドを作る 「発表会準備」行った場所の写真を使ってガイドブックを作成する 発表会・電車マスター表彰

- 1 対象 中学部〇組 第〇学年〇名 第〇学年〇名 計〇名
- 2 日時 平成〇年〇月〇日〇曜日 第〇校時 〇:〇～〇:〇
- 3 場所 中学部〇組教室 〇〇室
- 4 単元名 『ありがとう』を集めよう！
- 5 単元について

本学級は、発達段階の幅は広いが、活動内容を精選したり、見通しをもつことができるようにスケジュールを提示したりすることで、全員で活動に取り組むことができる。授業への意欲や、興味のあることへの集中力は高い生徒が多い。

これまでの学習の中で、衣類をたたんだり、食器を洗ったりするなどの家事のスキルを獲得してきた。手順や方法は定着しつつある一方で、衣類をたたんだり食器洗いをしたりする場面は、学校での活動が中心になり、家庭生活の中で行っている生徒は少ない。そこで、実際の生活場面で生徒が自らのスキルを活用して、自分自身のまわりのことやお手伝いができるようになることをねらいに学習を設定した。また、自分自身のまわりのことやお手伝いをしたことで他者に感謝してもらおう場面を設定することで、より達成感を味わい、生徒たちが主体性をもって獲得したスキルを活用して日常生活を送ることにつながると考えた。併せて、生徒自らが主体的に新たな活動に挑戦する際の動機づけにもなると考え、本単元の後半には、本学級以外の教師から依頼された活動に取り組む学習を計画している。

今回の授業では、『ありがとう』と書かれたブロックの重さでくす玉が割れ、出てきた花びらで集めた『ありがとうの花』を完成させ、相手からの感謝の気持ちの積み重ねを視覚的に理解できるような工夫をした。また、授業の最初に目標を明確に示し、教師からの指示を整理することで、生徒が自ら活動に向かうことができる場面を設定した。

6 単元の目標

- (1) 人の役に立つ経験を積み、『ありがとう』と言われることに価値を感じることができる。
- (2) 衣類たたみ、食器洗い等の手順を知り、一人で取り組むことができる。

7 本単元でつきたい力 (本校「つきたい力」より抜粋)

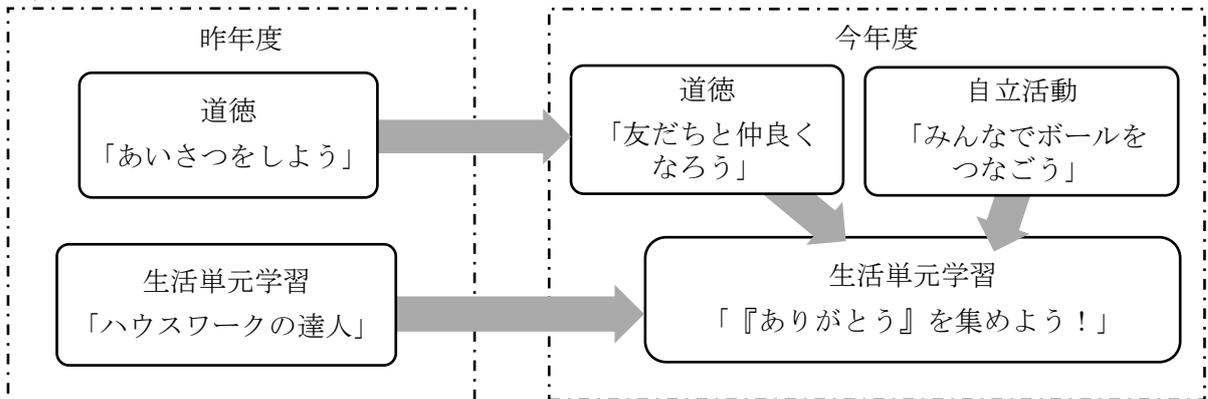
○生活に生きる確かな学力

- ・調理・洗濯・掃除などの生活技術の基本を身に付け、日常生活で生かす。
- ・学校や家庭、地域において、自分の力を発揮しながら生活する。

○豊かな人間性と社会

- ・集団の中で役割を果たし、友だちと協力して、様々な活動に取り組む。

8 単元のつながり



9 単元指導計画（本時 第2次 9/16時間）

	指導内容	時間	学習内容及び指導のねらい
第1次	家事のスキルを身に付ける	第1～3時	・衣類たたみ、食器洗いの手順を知り、取り組むことができる。
第2次	自分から家事に取り組む	第4～10時 (本時)	・衣類たたみや食器洗い等の家事に自ら取り組むことができる。 ・「ありがとう」と言われる経験を積むことで、主体的に家事等に取り組む力を高める。
第3次	依頼された仕事に取り組む	第11～16時	・グラウンド等の除草作業に取り組むことができる。 ・校内の清掃活動に取り組むことができる。 ・依頼主から評価を受け、自己肯定感や主体性を高める。

10 本時の目標

氏名	生徒の実態	本時の目標	評価
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>着替えの時に、体操服等をたたんで手さげ袋に入れることができる。</li> <li>毎日繰り返す活動や見通しをもてる活動の場面では、自分から次の行動に向かうことができる。</li> </ul>	・ズボンやシャツなどの端と端を揃えてたたむことができる。	
		・手伝いが必要な場面に気付いて家事に取り組み、ブロックを集めることができる。	
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>手先は器用で服をきれいにたたむスキルは身につけている。</li> <li>指導者の言葉がけを聞いて、服をきれいにたたむことができる。</li> <li>自信の無さから、気づいたことを行動に移すことに時間がかかることがある。</li> </ul>	・ズボンやシャツなどの端と端を揃えてたたむことができる。	
		・手伝いが必要な場面に気付いて家事に取り組み、ブロックを集めることができる。	
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>着替えの時に、指導者の言葉がけを聞いて、服をたたむことができる。</li> <li>一度経験したことや見通しがもてる場面では、自分から次の活動に取り組むことができる。</li> </ul>	・タオルの端と端を揃えてたたむことができる。	
		・手伝いが必要な場面に気付いて家事に取り組み、ブロックを集めることができる。	
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭での調理の経験がある。</li> <li>家事のスキルは身に付いている。</li> <li>相手の表情がよく分かり、ほめられることが動機づけになる。</li> </ul>	・茶碗や皿などの食器を洗い、汚れをきれいに落とすことができる。	
		・手伝いが必要な場面に気付いて家事に取り組み、ブロックを集めることができる。	
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>経験したことが身に付きやすい。</li> <li>手先が器用で、細かい作業に丁寧に取り組むことができる。</li> <li>相手の表情がよく分かり、ほめられることが動機づけになる。</li> </ul>	・掃除機を使って、床に落ちているごみを掃除することができる。	
		・手伝いが必要な場面に気付いて家事に取り組み、ブロックを集めることができる。	

11 本時の展開

時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点		教材 教具	評価
				T 1	T 1 他		
10:00	あいさつ		一斉				
	本時の学習内容を知らせる	iPad を見る。	一斉	『A先生が困っていた。』と伝え、iPad で映像を流す。		花を貼る模造紙	本時への意欲をもつことができたか。
10:05	移動	生活訓練室に移動する。	一斉				
	役割分担を知らせる。	iPad の映像を見て、担当を知る。	一斉	それぞれの部屋の担当を伝える。	写真に注目できるように支援する。	ホワイトボード 分担表 名前カード	自分の役割が分かり、自分から向かうことができたか。
10:15		家事を行い、ありがとうブロックを集める。 (衣類たたみ・食器洗い・掃除機・おもちゃの片付け・椅子の片付け)	一斉	生徒がお手伝いをする場面に気付くことができるようにモデルを示す。	生徒がお手伝いする場面に気付くことができるようにモデルを示す。	洗濯物 食器 掃除機 ブロック かご くす玉	活動の手順等が分かり、取り組むことができたか。 自分から活動に取り組むことができたか。
10:40	『ありがとうの花』を作る。	ブロックを持ってくす玉の周りに集合する。	一斉	集合するように言葉がけをする。	指示で集合の手本を示す。生徒が集合できるように支援をする。		
		くす玉についているかごにブロックを置く。  A先生からのお礼の映像をiPadで見る。	一斉	ブロックを置く生徒を指名する。  iPadで映像を流す	手本を示す。名前を呼ばれた生徒がブロックを置くことができるように支援をする。		期待感をもって活動に取り組むことができたか。
10:45	移動	教室に移動する。	一斉				
	振り返りを行う。	花びらを貼る。	一斉	生徒が花びらを貼ることができるように言葉がけをする。	生徒が花びらを貼ることができるように支援をする。	花を貼る模造紙 両面テープ	本時の目標に対して、達成感をもつことができたか。
	あいさつ	あいさつをする。	一斉				

# 授業サンプル⑩

## 参考資料 教育課程及び指導計画

### 1 児童生徒の実態（中学部：B2・C段階）

- ・発達段階がB2・C段階の生徒が在籍する、中学部自閉症学級である。
- ・日常的なコミュニケーションとして、あいさつをしたり、思いや要求を伝えたりすることができる生徒が多い。
- ・コミュニケーション手段として、絵カードを使っている生徒もいる。
- ・絵を描いたり歌を歌ったりする等の、表現活動が好きな生徒が多い。
- ・活動時間や活動量を適切に設定することで、安定して集団での学習に取り組むことができる。

### 2 教育課程について

	国語	数学	音楽	美術	保健 体育	日常生活 の指導	生活単 元学習	作業 学習	特別 活動	自立 活動	総合的な 学習の時間
時間数	72	72	72	72	72	180	72	144	36	216	36

### 3 日課表について

月曜日から金曜日まで午前10時から国語・数学・自立活動の個別学習の時間を設定している。  
個別学習でつけた力を、各教科等を合わせた指導等の学習場面で生かし、集団での学習に取り組むことができるようにしている。

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導				
2	国語・数学・自立活動				
3	美術	生活単 元 学習	自立活動	音楽	作業学習
4					
給食・昼休み					
5	作業学習	体育	/	自立活動	特別活動
6					
7	日常生活の指導				

### 4 指導計画（例）：生活単元学習

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
学校探検						
	地図を見て目的地を 目指そう！					
			ありがとう を集めよう			
					ありがとうを集めよう	

- 1 対 象 高等部〇組 第〇学年〇名 第〇学年〇名 第〇学年〇名 計〇名  
 2 日 時 平成〇年〇月〇日〇曜日 〇：〇～〇：〇  
 3 場 所 視聴覚室  
 4 単元名「学習発表会に向けて」  
 5 単元について

本グループは、自閉症を併せもつ生徒〇名を含む集団である。発達段階はA・B1・B2と幅広く、日常生活においても対人関係やコミュニケーション、身体面など様々な課題のある生徒たちである。

学習発表会に向けては、発達段階や興味・関心など生徒の実態に幅があるものの高等部全体として取り組むことを大切にしている。青年期に合った内容で障害の重い生徒にとっても分かりやすい内容、一人一人が力を発揮できる場面を設定し、身体での表現活動をふんだんに取り入れていくことで、みんなで力を合わせて集団的にやりきる達成感を感じられると考えている。

今年度の文化祭では、「美女と野獣」に取り組むことにした。各学級で場面の分担をしながら全体で一つのストーリーを作りあげ、全員でフィナーレを飾ることで集団づくりにつながると考えている。

本単元では、自分たちの分担になった場面の練習を中心に取り組んでいく。簡単な台詞や踊りのある場面を担当し、その中にそれぞれの得意な活動を盛り込んでいくことで、一人一人が主体的に活動に取り組み、達成感や自信をつけていけるのではないかと考えた。さらに、自分だけでなく友だちの活動にも目を向けられるような場面を設定し、友だちの頑張りを認めたり友だちとともに活動することの喜びを感じたりしてほしい。

- 6 単元の目標
- (1) 自分の役を理解し、主体的に練習に取り組むことができる。
  - (2) 自分の好きなことや得意なことを活かして、自己表現することができる。
  - (3) 友だちの活動に目を向けたり友だちの良さを認めたりする中で、一緒に活動することの喜びを感じることができる。

7 単元指導計画 (本時 第2次 3/5時間)

次	指導内容		時間	学習内容及び指導のねらい
第1次	発表内容の紹介 (指導者劇)		第1時	・学習発表会で取り組む劇の内容を知る。 ・指導者劇を見て自分がなりたい役を決める。
第2次	場面練習	パート別	第2時	・自分の台詞や動きを覚えるためにパートごとに練習をする。
		場面全体	第3時 (本時)	・自分の台詞や動き、場面全体の流れをつかむために通し練習をする。
第3次	リハーサル		第4時	・本番に向けて演技の最終確認をする。 ・本番に向けての意欲を高める。
第4次	振り返り		第5時	・学習発表会を映像で振り返り、自分の頑張りと友だちの良かったところを発表し合う。

8 本時の目標

- (1) 自分の役が分かり、意欲的に練習に取り組むことができる。
- (2) 友だちの発表の様子をしっかりと見たり、応援したりすることができる。

生徒名	目標
A	・踊りや舞台での動きが分かり、意欲的に練習に取り組むことができる。 ・友だちの発表の様子をしっかりと見て、頑張りと良かったところを発表することができる。
B	・自分の出番が分かり、意欲的に練習に取り組むことができる。 ・友だちの発表の様子をしっかりと見ることができる。

C	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の台詞や舞台での動きを覚え、意欲的に練習に取り組むことができる。</li> <li>友だちの発表の様子をしっかりと見て、頑張りや良かったところを発表することができる。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面に合わせてナレーションを入れることができる。</li> <li>友だちの発表の様子をしっかりと見たり、応援したりすることができる。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の台詞や舞台での動きを覚え、意欲的に練習に取り組むことができる。</li> <li>友だちの発表の様子をしっかりと見て、頑張りや良かったところを発表することができる。</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の台詞や舞台での動きを覚え、意欲的に練習に取り組むことができる。</li> <li>友だちの発表の様子をしっかりと見て、頑張りや良かったところを発表することができる。</li> </ul>
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>舞台での動きが分かり、意欲的に練習に取り組むことができる。</li> <li>友だちの発表の様子をしっかりと見たり、応援したりすることができる。</li> </ul>
H	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の台詞や舞台での動きを覚え、意欲的に練習に取り組むことができる。</li> <li>友だちの発表の様子をしっかりと見て、頑張りや良かったところを発表することができる。</li> </ul>
I	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の出番が分かり、意欲的に練習に取り組むことができる。</li> <li>友だちの発表の様子をしっかりと見ることができる。</li> </ul>
J	<ul style="list-style-type: none"> <li>踊りや舞台での動きが分かり、意欲的に練習に取り組むことができる。</li> <li>友だちの発表の様子をしっかりと見たり、応援したりすることができる。</li> </ul>
K	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の台詞や舞台での動きを覚え、意欲的に練習に取り組むことができる。</li> <li>友だちの発表の様子をしっかりと見て、頑張りや良かったところを発表することができる。</li> </ul>

## 9 本時の展開

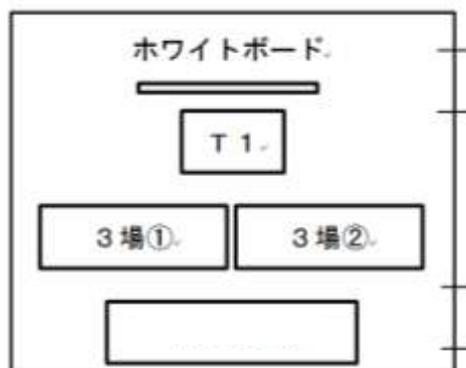
時間	学習内容	指導上の留意点		評価
		T 1	T 1 以外	
10:00	あいさつをする。  本時の内容と目標を知る。	学習発表会本番に向けて意欲を高められるようにする。 学習の流れを視覚的に提示する。	生徒がT 1の話に集中できるよう指導する。	本時の内容がわかり、学習発表会に向けて意欲をもつことができたか。
10:10	場面のパートごとに発表をする。 ・パートごと(3場面①・3場面②)に登場し、発表する。 ・自分の発表でない時は、友だちの発表を見る。  場面の通し練習をする。	場面の設定をしっかりと確認してから発表に入る。  通し練習をする前に、パートごとの発表の生徒の感想と指導者の評価、通し練習のポイントを伝える。	音響・照明 大道具 3場面① ・立ち位置や台詞の確認をする。 3場面② ・立ち位置や台詞の確認をする。 ・生徒と一緒に踊る。 ・ナレーションを入れるタイミングを伝える。	自分の役がわかり、練習に取り組むことができたか。
10:30	学習のまとめ ・お互いのパートの発表を見てよかったところや自分の頑張りを発表する。	自分の頑張りだけでなく、友だちの発表にも目を向けられるようにする。	友だちの活動を振り返られるように個別に言葉がけをする。	自分の頑張りを発表することができたか。 友だちの頑張りや良さに気づいて、発表をすることができたか。

10:35	歌「ストーリー」の練習をする。		歌指導 音響	
10:40	次回の内容を知る。	本番を意識できるようにしながら、回りの活動内容を説明する。		
10:45	あいさつをする。	全員しっかりと立ってからあいさつできるように言葉がけをする。		

10 評価

生徒名	評価項目
A	・踊りや舞台での動きが分かり、意欲的に練習に取り組むことができたか。 ・友だちの発表の様子をしっかりと見て、頑張りや良かったところを発表することができたか。
B	・自分の出番が分かり、意欲的に練習に取り組むことができたか。 ・友だちの発表の様子をしっかりと見ることができたか。
C	・自分の台詞や舞台での動きを覚え、意欲的に練習に取り組むことができたか。 ・友だちの発表の様子をしっかりと見て、頑張りや良かったところを発表することができたか。
D	・場面に合わせてナレーションを入れることができたか。 ・友だちの発表の様子をしっかりと見たり、応援したりすることができたか。
E	・自分の台詞や舞台での動きを覚え、意欲的に練習に取り組むことができたか。 ・友だちの発表の様子をしっかりと見て、頑張りや良かったところを発表することができたか。
F	・自分の台詞や舞台での動きを覚え、意欲的に練習に取り組むことができたか。 ・友だちの発表の様子をしっかりと見て、頑張りや良かったところを発表することができたか。
G	・舞台での動きが分かり、意欲的に練習に取り組むことができたか。 ・友だちの発表の様子をしっかりと見たり、応援したりすることができたか。
H	・自分の台詞や舞台での動きを覚え、意欲的に練習に取り組むことができたか。 ・友だちの発表の様子をしっかりと見て、頑張りや良かったところを発表することができたか。
I	・自分の出番が分かり、意欲的に練習に取り組むことができたか。 ・友だちの発表の様子をしっかりと見ることができたか。
J	・踊りや舞台での動きが分かり、意欲的に練習に取り組むことができたか。 ・友だちの発表の様子をしっかりと見たり、応援したりすることができたか。
K	・自分の台詞や舞台での動きを覚え、意欲的に練習に取り組むことができたか。 ・友だちの発表の様子をしっかりと見て、頑張りや良かったところを発表することができたか。

11 配置図 (全体説明時)



# 授業サンプル⑪

## 参考資料 教育課程及び指導計画

- 1 生徒の実態（高等部：A・B 1・B 2 段階）
- ・ 高等部〇組、○組の生徒は、障害の状態は様々であり、発達の段階にも幅がある集団である。
  - ・ 日常生活の中でも、対人関係やコミュニケーション、身体面など様々な課題のある生徒たちである。
  - ・ 生活経験を重ねる中で、仲間とともに活動することに喜びを感じたり仲間の存在を意識して活動に向かえたりするように生徒同士のつながりが少しずつ深まってきている。

2 教育課程について

	国語	数学	音楽	保健 体育	職業	家庭	美術	日常 生活	生単 単元 学習	特別 活動	自立 活動	総合 的な 学習 の 時 間
時間数	70	35	35	35	70	70	15	455	35	55	140	35

3 日課表について

高等部〇組、○組では、自立活動や教科の学習でつけた力を職場（施設）実習など実社会での体験や集団活動を通してより確かなものとなるよう取り組んでいる。

生活単元学習については、年間35時間設定で、基本的には毎週1回取り組んでいる。「文化」という学習名で生徒から文化実行委員を選出し、司会進行やレクリエーションの企画など主体的に活動できるよう取り組んでいる。

	月	火	水	木	金
1	自立活動				
2	日常生活の指導				
3	音楽	職／家	保体	生単	職／家
4	国語	職／家	特／美	特活	職／家
	給食・休憩				
5	日常生活の指導				
6	自立活動	数学	/	国語	総合的な 学習の時間
7	日常生活の指導			日常生活の指導	

4 指導計画（例）：生活単元学習

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
誕生会	レクリエーション	七夕音楽祭に向けて			体育祭に向けて	学習発表会に向けて		レクリエーション	誕生会	レクリエーション	お別れ会
			誕生会			レク	誕生会		誕生会		

## おわりに

本研究で、府立特別支援学校 11 校から集まった研究協力員が、自校で「各教科等を合わせた指導」の授業研究に取り組んだ成果を学習指導案集としてまとめました。学習指導案集に掲載した授業サンプルは、研究協力員が試行錯誤を重ねて考えた「各教科等を合わせた指導」の授業ですが、今後もより良い授業を追求し、改善し続けることが大切です。

授業を追求する上でのポイントを 3 点示します。



### 1 「遊びの指導」「生活単元学習」の授業づくり・授業改善に必要なポイントの共有

授業研究では、学習指導要領解説における考慮する点を踏まえて、学習指導要領解説における表記と実際の授業を合致させながら、「なぜ」、「もっと」、「こんなふうに」等々、研究協力員同士が授業づくり・授業改善のポイントを共有しました。

「学ぶ」基盤として子どもたちが「やりたい」「できるようになりたい」と願うことが不可欠であること、教師が考える育みたい力が子どもたち自身の目標となり、その目標に向かって取り組む姿こそ「主体的」であること等を確認しました。

### 2 教師が学ぶ、成長するために研究授業は大切であることを再確認

「授業を京都府に、指導案を全国に発信する」という良い緊張感の中で、授業研究会を進めるとともに、研究協力員同士が、疑問点や改善案を率直に伝え合う関係を築くことができました。

研究協力員をはじめ、授業研究に関わる全ての教師が協力して授業づくりを進めたり、授業改善の方策を考えたりする等の授業研究が、教師自身が学ぶ、そして成長するために大切であることを確認しました。



### 3 「各教科等を合わせた指導」の授業の質の向上

「各教科等を合わせた指導」については、教育課程上の位置づけが曖昧になる場合があります。すると、授業の「ねらい」が曖昧になり、指導・支援の方向性も定まりにくくなるため、「各教科等を合わせた指導」の教育課程上の位置づけの明確化と教師の意識改革が必要です。子どもたちのどのような姿を願い編成された教育課程なのか、目指す子ども像や学校教育目標、学部教育目標の達成が実現可能な構造か等、より良い教育課程づくりに向けた研究が、「各教科等を合わせた指導」の授業の質を高めるために必要であることを確認しました。

今後も教師自身が、「各教科等を合わせた指導」について「学ぶ」必要があること、そして自校の教育課程を説明できる力量を高めていくことが求められます。

本研究で取り組んだ「各教科等を合わせた指導」の授業サンプルには、特別支援学校だけでなく、特別支援学級や通常の学級でも参考になる視点を含んでいます。障害のある子どもたち一人一人の教育的ニーズに応じた多様な学びの在り方を具体的実践例として参考にしてください。

子どもたちが共生社会の一員として主体的に社会参加する力（生きる力）を育成するために、一人一人の生活の質がさらに高まるような授業づくりを目指しましょう。



## 引用・参考文献

- 1 「特別支援教育を学ぶ人へ」（ミネルヴァ書房 2011 年）佛教大学 菅原伸康教授
- 2 「障害のある子どものための教育と保育 エピソードで見る障害の理解と支援」（ミネルヴァ書房 2012 年）佛教大学 菅原伸康教授
- 3 「障害のある子どものための教育と保育 写真で見る障害のある子どものための課題学習と教材教具」（ミネルヴァ書房 2012 年）佛教大学 菅原伸康教授
- 4 「特別支援教育の学習指導案と授業研究 子どもたちが学ぶ楽しさを味わえる授業づくり」（ジアース教育新社 2013）編著 鹿児島大学教育学部 肥後祥治教授他
- 5 自立と社会参加に向けた「各教科等を合わせた指導」の充実をめざした実践研究報告会 講演資料 佛教大学 菅原伸康教授
- 6 特別支援学校 教育要領・学習指導要領
- 7 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）
- 8 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）
- 9 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編

### 「各教科等を合わせた指導」ステップアップガイド 学習指導案集 執筆・編集スタッフ

所 属	氏 名	備 考
佛教大学 教 授	菅原 伸康	指導助言者
京都府立盲学校 教 諭	天野 真理子	研究協力員
京都府立聾学校 教 諭	土井 かおり	
京都府立向日が丘支援学校 教 諭	菅野 力哉	
京都府立宇治支援学校 教 諭	万野 友紀	
京都府立城陽支援学校 教 諭	河村 英和	
京都府立八幡支援学校 教 諭	藤岡 美保	
京都府立南山城支援学校 教 諭	吉松 宏和	
京都府立丹波支援学校 教 諭	三枝 由起子	
京都府立中丹支援学校 教 諭	大石 真菜美	
京都府立舞鶴支援学校 教 諭	坂口 和佳	
京都府立与謝の海支援学校 教 諭	渡邊 淳夫	
京都府教育庁指導部特別支援教育課 指導主事	星川 涼華	特別支援教育課
京都府総合教育センター 特別支援教育部長	鋒山 智子	特別支援教育部
京都府総合教育センター 研究主事兼指導主事	野田 基子	
京都府総合教育センター 研究主事兼指導主事	小林 利恵子	

※所属及び職名は、平成 27 年 3 月現在

子どもたちの笑顔が輝く授業づくり  
「各教科等を合わせた指導」ステップアップガイド  
学習指導案集

平成 27 年 3 月発行

京都府総合教育センター 特別支援教育部

〒612-0064

京都府京都市伏見区桃山毛利長門西町

TEL 075-612-2953（特別支援教育部）

FAX 075-612-3267

京都府総合教育センターのホームページにも掲載しています。

[http:// www.kyoto-be.ne.jp/ed-center/](http://www.kyoto-be.ne.jp/ed-center/)